

# 軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議委員名簿

敬称略（R7.4.1現在）

	氏名	所属・役職	備考		1/28会議 (第6回)	
1	荒井 英治郎	信州大学教職支援センター准教授	学識経験者 及び 支援者	座長	出席	
2	本田 秀夫	信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部部長				オンライン
3	三和 秀平	信州大学学術研究院教育学系准教授			副座長	出席
4	木村 泰子	大阪市立大空小学校初代校長				出席
5	西郷 孝彦	世田谷区立桜丘中学校元校長				出席
6	福本 理恵	SPACE CEO				欠席
7	飯澤 幸世	日本財団公益事業部子ども支援チーム				出席
8	今村 久美	NPO法人カタリバ代表理事				オンライン
9	西野 博之	NPO法人フリースペースたまりば理事長				オンライン
10	岡田 敏之	基礎教育保障学会会長 京都市立洛友中学（併設校）元校長				出席
11	藤木 拓道	義務教育課長	県教育委員会		出席	
12	一色 保典	学びの改革支援課長				出席
13	向井 健太郎	心の支援課長				出席
14	本城 慎之介	学校法人軽井沢風越学園理事長	町関係者		出席	
15	上原 浩子	長野県軽井沢高等学校長				欠席
16	山崎 伸一	軽井沢町立軽井沢中学校長				代理 (楠)
17	久保 貴史	軽井沢町立軽井沢西部小学校長				欠席
18	諸星 ひとみ	NPO法人軽井沢教育ネットワークこんぺいとうの会代表				出席
19	岩崎 ひとみ	NPO法人国際多文化教育推進協会理事長				出席

(事務局)

宮本 隆	軽井沢町教育委員会教育長
内堀 繁利	軽井沢町教育委員会教育推進アドバイザー
岩井 和成	軽井沢町教育委員会こども教育課長
金井 章宏	軽井沢町教育委員会こども教育課課長補佐兼学校教育係長
金井 拓也	軽井沢町教育委員会こども教育課軽井沢高校・教育魅力化推進係長
根津 彩香	軽井沢町教育委員会こども教育課軽井沢高校・教育魅力化推進係
小林 真理	軽井沢町教育委員会こども教育課スクールサポーター
桐野 耕介	軽井沢町教育委員会こども教育課軽井沢高校・教育魅力化推進係
堀本 淳子	軽井沢町教育委員会こども教育課教育支援センター職員

## 第5回 軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議まとめ

日時	令和7年（2025）10月30日（木） 午後3時00分から午後4時50分まで			
会場	軽井沢高等学校 多目的室			
出席 （敬称略） ◎座長 ○副座長）	◎荒井 英治郎 西野 博之 ◎座長 臼田 瑞希（代理） ○副座長） 久保 貴史	○三和 秀平 岡田 敏之 本城 慎之介 諸星 ひとみ	西郷 孝彦 一色 保典 上原 浩子 岩崎 ひとみ	飯澤 幸世 唐沢 浩一（代理） 山崎 伸一
欠席（敬称略）	本田 秀夫 今村 久美	木村 泰子	福本 理恵	傍聴者 19人
事務局	宮本 隆 教育長 内堀 繁利 教育推進アドバイザー 岩井 和成 課長 金井 章宏 課長補佐 金井 拓也 係長 学校教育係 職員 小林 真理 堀本 淳子 軽井沢高校・教育魅力化推進係 職員 根津 彩香 桐野 耕介			
会議事項	（1）第4回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議のまとめ （2）「私たちの学校」をつくるワークショップについて （3）設置場所・スクールコンセプト・スクールデザインについて （4）夜間中学について （5）その他			
当日資料	次第、設置準備会議委員名簿、第4回設置準備会議まとめ、 「私たちの学校」をつくるワークショップについて、 「私たちの学校」づくり軽井沢フォーラム2025ワークショップ記録、 「私たちの学校」づくり経過報告、設置場所について、 スクールコンセプト（イメージ）に関わる意見・質問と事務局対応、「信州オープンドアスクール（仮称）」創造会議の設置について、スクールコンセプト（イメージ）、日課（第1案）、 教育課程（第1案）、学習空間デザイン（第1案）、夜間中学について			
主な内容（意見、質問等）				
会議次第について				
1. 開会				
2. 教育長挨拶				
3. 座長挨拶				
4. 議題				
（1）第4回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議のまとめ				
【意見・質問等】なし				
（2）「私たちの学校」をつくるワークショップについて				
【意見・質問等】なし				
（3）設置場所・スクールコンセプト・スクールデザインについて				
【意見】・高校の施設を使用するにあたり、高校の先生にも軽井沢オープンドアスクール（仮称）についての 研修や準備をしてほしい。				
・校舎の改築やカリキュラムについて、横浜きりん学園が参考になるように感じる。				
・教育支援センターとの連携や、民間の場所との連携を考えていただきたい。				
・高校とも協力して、子どもの意見を聞きつつ、チャイムを変えるなど協力をいただきたい。				
・軽井沢オープンドアスクール（仮称）の売りをしっかり突き詰める必要がある。				
・高校生の学習と絡めて、どんな場所にすればよいかをプロジェクト的に動けばいいのではないかな。				
・休み時間が設定されていないが、あったほうがいいのか。				
・夜間中学の募集について、広域での募集をしていただきたい。				
・部活動へ参加したい生徒がいた場合は、対応いただきたい。				
・保護者の送迎を配慮し、朝から図書館等を活用した居場所を準備いただきたい。				
・スクールバス等も検討いただきたい。				
・夜間中学についても、それぞれのペースがあるため、自由進度学習を取り入れていただきたい。				

- 【質問】・連携型中高一貫校を目指していくとのことだが、高校に上がる際の受け皿はどうなるか。
- ・分校型ではなく、本校型にできないのか。
  - ・給食はないとのことだが、高校の学食を使うこと等、工夫はできないか。
  - ・連携型中高一貫校になった場合、入試で有利になるようなことはあるか。
  - ・マイプランタイムは、自習扱いで、1～4時間目は必ず出なければいけないか。
  - ・発達障害や、教室にいられない子への対応はどのようになるのか。
  - ・既存の学校や教育支援センターでの知見等はどのように生かされていくのか。
  - ・日課が遅めに設定されているが、どのように通ってくることを想定しているか。
  - ・日課について、なぜこの時間割になっているのか。
  - ・子どもたちが何時ごろ学校へ登校してくることを想定しているか。
  - ・軽井沢駅からどのような手段で、学校へ登校して来るのか。

(4) 夜間中学について

- 【意見】・ニーズ調査と、実際の入学者は必ずしも一致しない。  
対象者の掘り起こしについて、ぜひもっとアウトリーチ的にやっていただきたい。
- ・修業年限の検討をいただきたい。
  - ・オンラインでの聴講ができるように検討いただきたい。
- 【質問】・夜間中学対象者が、昼間に学びの多様化学校コースと一緒に勉強することができるか。
- ・日本語を学びたいが仕事の都合で17時15分からいけない人も受け入れていただけるか。

(5) その他

【意見・質問等】なし

5. その他

○事務局からの事務説明。

- ・次回は令和8年1月28日、軽井沢町中央公民館にて開催となる。
- ・第7回は、令和8年3月5日、軽井沢町中央公民館にて開催となる。  
時間が15時から17時までの予定だったが、16時から18時となる。

# 【資料 2 - 1】

## 『私たちの学校』づくり」ワークショップ・実践について

令和 8 年 1 月 28 日現在

### 1 ワークショップ

	対象者	期日	方法	テーマ	資料番号
学校内	東部小学校 児童	11月11日	4～6年生の 縦割り班	よりよい学校をつくるには	【資料 2 - 2】
	中部小学校 児童	10月6日 12月10日	児童会がアンケートにもとづき下記の実践を実施		
	西部小学校 児童	7月15日 7月22日	5年生のクラスごと、車座でのトーク	誰もが楽しく通える学校はどんな学校か	【資料 2 - 3】
		10月27日	6年竹組	クラスの名前は松と竹でいいのか	【資料 2 - 4】
	軽井沢中学校 生徒	6月25日	全学級同時	授業のあり方	【資料 2 - 5】
		12月10日	全学級同時	全校のみんなでカフェをつくろう	【資料 2 - 6】
学校外	※下記対象者	7月 8日	グループ別トーク	既存校やオープンドアスクールに求めるもの等	【資料 2 - 7】
	(8月22日は、児童・生徒のみ)	8月22日	教育支援センターにてテーマトーク	7つのテーマからルーレット方式で決定	【資料 2 - 8】
		2学期中 →3学期中 実施予定	グループ別トーク	申込時の希望テーマを踏まえて決定	
	町民・町外者	9月22日	フォーラム	軽井沢町の教育に期待すること	※第5回会議で報告済(資料が大量なので省略)

※の対象者：

- (1) 学校に行きたいと思っても、行きづらかったり、欠席が多かったりする児童・生徒とその保護者
- (2) 発達障害の診断もしくは疑いがあり、学校への行きにくさや過ごしづらさのある児童・生徒とその保護者
- (3) スクールサポーター (SS) に不登校や発達障害について相談したことのある児童・生徒とその保護者

### 2 実践

	対象者	期日	方法	内容	資料番号
学校内	中部小学校 児童	10月6日	全校同時	学校宝探し	【資料 2 - 9】
		12月10日	全校同時	児童会祭り	【資料 2 - 10】
	軽井沢中学校 生徒	12月24日	全校同時	よりみちカフェ	【資料 2 - 11】

来年度の『私たちの学校』づくり」に向けたワークショップや実践等の手法については、今後協議していく。

## ワークショップ結果報告（軽井沢東部小学校）

### 1 実施概要

- (1) 実施日：令和7年11月11日（火）
- (2) 実施方法：4～6年生（約70人）を14の縦割り班（各班4～5人）に分けて実施。  
児童会の時間（45分間）を活用し、テーマに沿って自由に意見出しを行う形で話し合い。
- (3) テーマ：『私たちの学校』をつくるアンケート」の東部小学校の間5の結果をもとに、以下の内容とした。  
「よりよい学校をつくるには～授業と行事に注目して考えよう～」
- (4) 進行方法：全体進行を事務局職員が実施。  
話し合いは6年生の進行のもと縦割り班ごとに行った。  
意見は班ごとにホワイトボードに記入し、終盤に共有した。

### 2 当日の意見

当日の意見については、次ページの意見一覧をご覧ください。

### 3 今後の見通し

職員で来年度に向けての検討会を実施し、アンケート結果及び今回のワークショップの意見を受けての方向性を話し合う。



当日の様子



当日の様子

## 【資料 2 - 2 ②】

### 意見一覧

項目	内訳	意見
授業	日課・教育課程全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定の教科を増やしてほしい。(複数班) (図工、体育)</li> <li>・授業の時間を減らしてほしい。(複数班)</li> <li>・5時間授業を増やす。</li> <li>・1科目30分で集中できるようにする。</li> <li>・教科を増やしたい。</li> <li>・必ず1時間目～6時間目のどこかには国語と算数を入れる。</li> <li>・クラブ+委員会の活動を増やしてほしい。</li> <li>・休み時間にプールをしたい。</li> </ul>
	取り組み方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しく学習したい(→笑える)。(複数班)</li> <li>・集中して受ける。</li> <li>・努力して取り組む。</li> <li>・授業と休み時間の境目で切り替える。</li> </ul>
	手段(ICT関係)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットを使って学習するのを増やしたい。(複数班) (調べるだけじゃなくて、算数とかでも使いたい)</li> <li>・オンライン授業(複数班)</li> <li>・動画で学ぶ。</li> <li>・ゲームで授業</li> <li>・ゲームしながら(マイクラ、フォトナ、あつ森)。</li> </ul>
	手段(その他)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横になりながら。</li> <li>・運動しながら。</li> <li>・お菓子を食べながら(チョコ、じゃがりこ)。</li> </ul>
	選択制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな授業を受けられる。</li> <li>・個人で進めたい。</li> </ul>
	内容(特定の教科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすい授業(国語)</li> <li>・図工で自由につくりたい。</li> </ul>
	内容(活動・体験)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校外に出る。(複数班) (散歩、外に出て授業、社会見学を増やす)</li> <li>・クイズ関係(複数班) (週1 Kahoot取り入れ、クイズ作り)</li> <li>・体育だけでなくもっと色々なスポーツを体験できる授業を作る。</li> <li>・絵をかき勉強をしたい(動物の絵、スケッチ)。</li> <li>・全校で遊ぶ時間を2ヶ月に1回は取り入れる。</li> <li>・月1で遊びを入れる(学年ずつ)。</li> <li>・ゲーム(マイクラ・桃鉄など)</li> <li>・命を守る授業(サバイバル)</li> <li>・総合でお祭りみたいなのをやる。</li> <li>・東部小でしかできない特別なこと</li> </ul>
	内容(児童の主体性)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主学习(全教科)</li> </ul>
	内容(意見の共有・協働の工夫)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲良くみんなで協力してやりたい。</li> <li>・仲良く楽しめるような授業</li> <li>・みんなで交流する時間を増やす。</li> <li>・話し合いながら。</li> </ul>
	教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分に合う先生を選ぶ。</li> </ul>
休憩時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・途中途中で休みを入れる(授業中)。</li> </ul>	

項目	内訳	意見
	既存のもの の継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年間に1回は学校の祭りがあるといい。</li> </ul>
	既存のもの の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 軽東祭関係（複数班）（1日中やりたい、町の人を招待とか学校全部を使いたい）</li> <li>・ 修学旅行関係（複数班）（ディズニー行きたい、おこづかいを5000円以上に）</li> <li>・ 体育祭をやりたい。（複数班）（大玉転がし、綱引き、短距離走、二人三脚）</li> <li>・ 運動会で親も参加できる競技を作ってほしい。</li> <li>・ 文化祭（屋台→チョコバナナ、綿あめ、金魚すくい、焼きそば、たこ焼き、シャカポテ、りんごあめ、いちごあめ、シャインマスカットあめ、スタバ、焼き鳥）</li> <li>・ 2時間目休みに学校の外に行きたい。</li> <li>・ 花の道の花を違うのにする。ヒマワリ以外も植える。</li> <li>・ 掃除金曜日だけ。</li> <li>・ 縦割り班で遊ぶなら全校で遊びたい。</li> <li>・ 学校の行事を増やす。</li> <li>・ 冬休みや春休みを長くしてほしい。</li> <li>・ 避難訓練を2時間目休みにやらないでほしい。</li> <li>・ マラソン大会をなくしてほしい。</li> </ul>
行事	新たなもの の提案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交流（複数班）（みんなで話す・遊ぶ、全校で遊ぶ、みんなでドッジボール等のスポーツ、班ごとにボーリング、1週間に一度は欲しい）</li> <li>・ ハロウィン関係（複数班）（値段を決めて、仮装、お菓子）</li> <li>・ クリスマス関係（複数班）（値段を決めて、プレゼントをもらいたい、プレゼント交換）</li> <li>・ 体験活動（複数班）（仕事体験、文化体験、植林、ボランティア）</li> <li>・ 特別な日（複数班）（態度を改める日、何でも持ち込みOKな日、授業がない日、週1自転車登校）</li> <li>・ カラオケ（複数班）（全校で）</li> <li>・ 動物を飼う（複数班）（学年で一匹ずつ）</li> <li>・ 休日（複数班）（クリスマスやハロウィンを休日に、月1休み増やす）</li> <li>・ お化け屋敷（学校全体）</li> <li>・ お正月（先生からお菓子もらう）</li> <li>・ クイズ大会</li> <li>・ お菓子パーティー（学校全体で）</li> <li>・ 学校でみんなでお泊まり会</li> <li>・ ゲームをしたい。</li> <li>・ スキー、スノーボード</li> <li>・ 授業で遊びたい。</li> <li>・ 寝る時間が欲しい。</li> <li>・ お弁当を持ってきて、好きな場所で好きな人と食べたい。</li> </ul>

## 【資料 2 - 3 ①】

令和 7 年（2025 年） 9 月 22 日  
第 4 回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議 資料より

### ワークショップ結果報告（軽井沢西部小学校）

#### 1 実施概要

- (1) 実施日：5 年松組 令和 7 年 7 月 15 日（火）  
5 年竹組 令和 7 年 7 月 22 日（火） ※今後も数回実施予定
- (2) 実施方法：5 年生 2 クラスを、日にちを変えて実施。  
授業 1 時間分を活用し、テーマに沿って車座で自由に意見だしを行う形で話し合い。
- (3) テーマ：アンケートより抽出し、下記の内容とした。  
「誰もが楽しく通える学校はどんな学校か」
- (4) 進行方法：椅子を円形に配置し、クラス会議という形式にて子ども主体で実施。  
テーマについて各自考える時間を設け、その後順番に発言していった。

#### 2 当日の意見

当日の意見については、次ページの意見一覧をご覧ください。



松組の様子



竹組の様子

## 【資料 2 - 3 ②】

### 意見一覧

項目	内訳	意見
学習	学ぶ動機づけや意欲	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業つままない、やりたくないではなく、全員が興味のある授業にする。</li> </ul>
	日課・教育課程全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>全部5時間がいい。週に1回くらいは、6時間にする。</li> <li>時間を5分くらい短くして(40分授業)、ゆっくり分かりやすく授業をする。</li> </ul>
	取り組み方	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科ごとに教室を分けてやる授業。(3人)(体育で怪我しているときは、見学になって楽しめない。それが嫌だから、自分で教科を選ぶことができれば、その時間は他の教科ができる。自分で1日2時間とか決める。)</li> <li>苦手な教科や苦手なことができる教室があればいい。わかば教室では割り算の筆算をやっている。そういうのをできるところ。もう1回同じ学習ができるようにすればいい。</li> <li>西部小の梅組、桃組、桜組のような特別教室(授業を普通に受けられない人も安心して過ごせるから)</li> <li>好きな人と(授業が)できる。</li> </ul>
	取り組む姿勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>自律して、宿題の内容を決める。</li> </ul>
	クラス別コース別選択制	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で時間割や内容を決める。(5人)(大学みたいに、自分でやる、学年内のグループで学ぶ)</li> <li>週1で自分で授業をつくれる(風越学園みたいに)。(体育は外、算数や理科など。各部屋に先生がいる。2時間続けてとかじゃなくてバランスよくやる)</li> <li>5年生でやっている自主学習をもっとやりやすくする。</li> <li>自分の伸ばしたい教科の授業をやる。</li> <li>義務教育だから、バランスよくしなくてはいけない。週に2日くらい、自分の時間割にする。</li> <li>自分で全部選ぶとバランスが悪くなるから、自由だけど、先生が「必ず算数は入れてね」とかにすればいい。</li> <li>一人ひとりが違う授業をすると、やりたいことがいろいろあってぎゅうぎゅうになるから、みんなのできることをやる。</li> </ul>
	教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>教える先生が一人一人のペースを理解して、教えてくれるといいな。</li> </ul>
生活	新たな空間や備品の要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユニバーサルデザインを取り入れる。(3人)(骨折した人や車椅子の人でも過ごしやすい、より多くの人に通える、障がいのある人も楽しく遊べる遊具)</li> <li>町の自然を生かす。(2人)(落ち着ける場所をつくって木を植える、自然を堪能できるようにする)</li> <li>いろんな学校の室内を見て、この学校にないものを参考にして取り入れる。</li> <li>教室それぞれに何か楽しいもの</li> <li>みんながのびのびできるよう、教室を広くする。</li> <li>勉強する/遊ぶ それぞれの部屋をつくる。</li> <li>授業で落ち着けない人のための教室をつくる。</li> <li>本好きな人のために図書館をつくり、本を増やす。</li> </ul>

項目	内訳	意見
生活	新たな空間や備品の要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中でも休める場所、教室が欲しい。なんていうか、水筒の水を飲んで、少しだけ落ち着ける部屋。中庭とか。</li> <li>・中庭に池が欲しい。授業中に「うー」と頭がいっぱいになったときに、休める、リフレッシュできるといい。自然と触れ合うことも。ストレスを発散できる場所があるといい。</li> <li>・みんなが落ち着ける場所（真ん中に長方形みたいな円があって、あったかい・冷たいお茶がある。みんなで話してもいいし、一人でタブレットさわっててもいい。個室？みたいな休憩スペース。周りに木がある）</li> <li>・個室をつくる（むかむかしてる気持ちが落ち着くから）。</li> <li>・お風呂をつくる（むかむかしてる気持ちが落ち着くから。タオル等は家から持ってくる。何分使ったかを記入して水道代は家の人払う。本当にやるなら、みんなが利用できてみんなにとって「楽しい学校」になるように、校長先生や家の人で相談する。料金を半額にするっていう方法もある。職員室の近くにつくって見守れるようにする。校内につくれなければ校外にはみ出すように作る方法もある。）。</li> </ul>
	給食	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな人と食べる。</li> <li>・（金額を）選べる。</li> <li>・給食を好きなものにするると残食が多くなる。SDGs 的のどうなのか？あと、好きなものばかりだと栄養が偏るのでは？</li> <li>・誕生日には好きな給食を食べられる。</li> </ul>
	仲間との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校にまだ、知らない人が多いから、いろんな人と交流できる時間が欲しい。</li> <li>・町の全部の学校と交流する。交流ではいろんな授業をやる。</li> </ul>
	時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の外に出て、ちょっとした散歩の時間があればいい。</li> </ul>
その他	学校全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西部小みたいに、一人一人がルールを理解して、楽しく過ごす。</li> <li>・いろいろ試してみる環境（チャレンジできる）</li> <li>・週1で自分の好きなことができる。</li> </ul>
オープン ド ア ス ク ー ル	日課・教育課程全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行く時間や帰る時間、時間割を自分で決められるようにする。</li> </ul>
	備品や空間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防音室が欲しい。わーって叫びたい。</li> </ul>

# 【資料 2 - 4 ①】

## ワークショップ結果報告（軽井沢西部小学校）

### 1 実施概要

- (1) 実施日：令和7年10月27日（月）
- (2) 実施方法：6年竹組で実施（出席児童数23名）  
授業1時間分を活用し、テーマに沿って車座で自由に意見出しを行う形で話し合い。
- (3) テーマ：第4回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議内で、委員から「軽井沢西部小学校の学級名の松組・竹組は、優劣を想起させるのではないか」という発言があったことをもとに、下記の内容とした。  
「クラスの名前は松と竹でいいのか。他にアイデアはある？」
- (4) 進行方法：椅子を円形に配置し、クラス会議という形式にて児童主体で実施。テーマについて各自考える時間を設け、その後順番に発言していった。

### 2 当日の意見

当日の意見については、次ページの意見一覧をご覧ください。



当日の様子



当日の様子

## 【資料2-4②】

### 意見一覧

項目	意見
意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の花←花言葉・順番がない。</li> <li>・順位など気にしていない。</li> <li>・この学校らしくこのままで良い。</li> <li>・松と竹でいい（全員）</li> </ul>
解決策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松と竹でいい。</li> <li>・説得する（昔から伝わっているから竹と松、ネタにされないから今のままがいいと思う）。</li> <li>・スライドや文を書き、6年生がプレゼンする。</li> <li>・グループでプレゼン発表。</li> <li>・いい意味を伝える。</li> <li>・自分達でしっかり伝える。</li> <li>・上とか下とかないから、アンケートをとる（優劣についてのアイデア）。</li> </ul>
結論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松と竹でよい。6年生が（設置準備会議の委員に向けて）プレゼンする。</li> </ul>

## ワークショップ結果報告（軽井沢中学校）

### 1 実施概要

- (1) 実施日 : 令和 7 年 6 月 25 日（水） ※今後も数回実施予定
- (2) 実施方法 : 各学級、4～8 人のグループに分かれ、20 分程度話し合いを実施。
- (3) テーマ : 話し合いのゴールを、「あなたをふくめて、だれもが自分らしく、まわりの人と学びあう学校であるためには、どうしたらいいだろう？」とし、話し合いのテーマを「そのために、授業に注目してグループごとにアイデアを出そう！」と設定。  
※今回のテーマについては、アンケート結果の 1 位を選定。  
次回以降もアンケート結果の上位から選定予定。
- (4) 進行方法 : 全校放送にて導入と全体進行を実施。  
各クラスでテーマに沿った話し合いを行い、話し合いで出されたアイデア（意見）とその理由、結論（まとめ）は「Canva」の各グループのシートに記入。

### 2 当日の意見

当日の意見については、次ページの意見一覧をご覧ください。



説明の様子



話し合いの様子

## 【資料2-5②】

意見一覧 ※理由について発言がなかったアイデア（意見）もある

内訳	アイデア（意見）	理由
学ぶ動機 づけや 意欲	・授業が楽しくなってみんなが勉強が好きになるように工夫する。	・将来社会に貢献できるように、勉強する。
	・みんなが寝ないような集中できる授業をする。	・誰かが寝ているとまじめな人のモチベーションも下がるから。
日課・ 教育課程 全般	・授業時間を減らす。（複数）（2時間目をなくす、2時間減らす、計画休業日を廃止して午前授業のみ）	・午後の授業の就寝率が高いから。 ・早く帰るため。 ・下校時間を増やして家庭学習を増やす。
	・授業時間を短くする。	・長いと、集中力が落ちる。 ・50分も集中できないから。
	・授業時間を減らして1日の授業の数を増やす。	・集中力が切れることがないから。
	・授業時間を25分にして授業ペースを早くする。	・集中力が続くのは25分間で、授業のペースが早ければスムーズに勉強ができると思ったから。
取り組む 姿勢	・メリハリを付ける、ルールを見直す。	・授業中の態度を改められよりよい授業ができるから。
	・みんなが静かにする。	・集中できない人がいるから。
	・授業に集中できる環境（人の邪魔になることをしない）	・環境がないとまずもって学習できないから。
手段 (ICT 関係)	・オンラインでやりたい。（複数）（1か月に一度家庭で、学校のどこでも受けられるように）	・クラスメイトと会いたくないから。 ・そうしたほうが楽しくなって眠くなる人がいなくなる。 ・分かんなかったら先生にだけ言えるから。 ・リモートのあの雰囲気が好きだから。 ・登校するのが大変だし、天気が悪いとバスに朝早く乗って大変だから。 ・各々が集中できる空間で勉強できるので、集中できる。
	・もっとタブレットを使った授業をする。（複数）	・検索したりして便利だから。 ・書く（ノートをとる）のが苦手だから。 ・タブレットを使うことで授業への意欲や楽しさが得られるから。
	・放課後の家庭学習で分からないところをすぐ聞けるようにタブレットを持ち帰る。（複数）	・分からなかったらすぐ聞けるから。 ・分からないとやる気が失せるから。
	・各教室の入り口にデバイスを置いて入室や欠席を一目で分かるようにする。	・挨拶の時めんどいから。
	・授業はAIがやればよいと思う。	・先生の顔をうかがって意見を出せない人がいると思うから。
	・タブレットで調べる授業。	・使い方を学べるし、自分のペースで進められるから。調べる力をつけるため。
	・1人1台自分用のアイパッド（学校指定じゃないやつ）を購入して、ノートにしたり問題を解いたりする。	・先生から教えられて覚えるのではなく自分から覚えたほうが将来身のためになるから。

内訳	アイデア（意見）	理由
手段 (ICT 関係)	・タブレットでゲーム感覚で学習する。	・社会に出たときにタブレットを使う機会が増えていくため。 ・紙のノートはかさばるし、書類がたくさんあっていちいちめんどくさいから。それならアイパッドで一つにしちゃった方がいい。 ・板書などよりも楽しく学べるため。
	・動画を使う。	・分かりやすい。
	・NHK for Schoolを見る。	・授業を楽しく学ぶために見る理解を深めるため。
	・カフートなど少し特別な楽しいけど学べる授業	・モチベーションが上がるから。 ・楽しく授業を受けたいから。退屈だと寝てしまうから。
	・授業はチャットGPTを使いたい。	・正しい情報を見極めて調べる力もつくし、意見交換が簡単にできるから。 ・調べ物が楽だから。
	・黒板をタブレットで撮っていい。	
	・休み時間にスマホOK。	・分からないところを先生に直接じゃなくても聞けるから。
	・分からないところはすぐに電子機器で調べられる。 ・タブレットなくす。	・分からないところをずっと覚えておくのは困難なため。 ・頭に入らない。
手段 (学習 道具)	・タブレット、紙（ノート）、両方使える環境（複数）	・どちらも使うのが難しい生徒がいると思ったから。 ・字もきれいになるし、タイピングもはやくなるから。
クラス別 コース別 選択制	・集中して勉強したい人と、話したりしながらやりたい人のクラスを分ける。 ・みんなでやりたい人と一人でやりたい人に分かれる。	・それぞれ楽なペースが違うから。
	・（大学のような）選択授業をしたい。（複数）	・好きな授業をたくさんやることができるうえテスト期間になったら苦手な教科を好きなだけできる。
		・自分のやりたいことができる。
		・自分が好きな教科、得意な教科などの長所をのばすことができる。
		・選択した授業によってより専門的な知識を得ることができるから。
		・自分のペースでやるため。
		・早く学びを始めた人がいるから。
		・いろいろな人と関わられる。やる気が出る。
		・自分の好きなものを選べたら楽しく、能力を高められそうだから。
	・受けたくない授業いやいや受けるのは辛い。	
・学習のレベルごとクラス分けしてほしい。コース別学習を数学以外でも実施してほしい。（複数）	・人それぞれレベルが違うから自分に合ってる勉強のやり方やスピードが近いのが見つかると思ったから。	

内訳	アイデア（意見）	理由
クラス別 コース別 選択制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習のレベルごとクラス分けしてほしい。コース別学習を数学以外でも実施してほしい。（複数）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のペースで学習を進めたいから。</li> <li>・授業が難しくついていくのが大変だから。自分がついていけないから。</li> <li>・他の授業についていけない不安とかがなくなればよいと思ったから。</li> <li>・分からない所を先生に質問しやすい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科ごとやらないといけない回数を決め、好きな時間に好きな教科を受けられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気分が乗らない日があるから。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の受ける順番を変えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好きなタイミングで受けられるから。</li> </ul>
形態 (全般)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒と教師で1対1でやる。（複数）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言いたいことが言えないかもしれないから。</li> <li>・自分が分からないところを中心にたくさん聞ける。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どこでも授業を受けられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のペースで受けられる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・席を自由にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の好きな人と席を隣にすることにより授業を楽しく受けられる。英語とか気まずくて会話ができないという状況が少なくなる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・席移動をありにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いつも同じ席だと飽きるし、友達と相談しながらできるから勉強もはかどる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中に動ける仕組み。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ずっと同じ所に座っていると眠くなるから。</li> <li>・座ってばっかだと眠くなるから。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適度な雑談がある授業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ずっと頭を使うと疲れるから休憩として雑談をしたい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物がいて欲しい。音楽をかけたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・癒しが欲しいから。集中力とやる気をアップさせるため。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人にあった勉強法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語とか昔から教育を受けていた人との差が大きかったりするから。</li> <li>・みんな学習のペースが違うから。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の苦手な漢字を勉強する時間を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のペースで漢字を覚えることができる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強が苦手な人と、得意な人で授業をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分に合った授業ができるから。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1時間の授業の中で前半の半分が基本的な授業、後半が自習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話を聞いているだけでなく自習をしたい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習ったことを生かしてカフートの問題を作り解く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんながわからない問題を解いて、答え合わせもすぐにできる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問する時間をとる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問したいのにできない人がいるかもしれないから。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日付で当てるのをやめ、端から順番とかにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・32以上の人が当たらないとその人たちの勉強にならないから。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルーレットで指名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハラハラしておもしろくなるから。</li> </ul>	
形態 (導入)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初に10分間自習の時間をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト対策にもなるし、授業の始めの息抜きになるから。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初の5～10分をわからないところを聞く時間にしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記憶が定着するから。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前の授業のポイントをおさらいする。</li> </ul>	

内訳	アイデア（意見）	理由
形態 (まとめ・振り返り)	・最後の10分を友達と教え合う時間にする。(複数)	・友達だと気軽に聞けるし、教えることで自分も学び直すことができる。勉強の進度に置いていかれない。 ・一人で黙々とやってもやることなく眠くなるだけだから。
	・授業があと5分ぐらいの時、先生に今日わからなかった問題をアドバイスなどをもらいに行く。	・授業の終わった時に質問していると、次の移動教室に間に合わなくなるから。
	・授業で習ったことを友達と振り返る。 ・最後に意見をまとめる時間を取る。	・その授業で習ったことを整理するため。
	・最後に、分からないところについて各々が勉強する時間をとる。	・前回の内容を理解していないと次に進めないことがほとんどだと思うので。
	・授業の時に毎時間プリントを配り自分の意見をそこに書き提出・回収する。	・まとめるのが楽。
内容 (特定の教科)	・英語の授業で日本語を使わない。	・日本語使うと英語が覚えにくそう。
	・もっと英語の学習に力を入れる。	・半端な英語能力だと将来的に困る。
	・家庭科で調理実習を増やしてほしい。	・にんじんを食べたいから。
	・体育の日だけの日を作る。	・体育がとても好きな人がいるから。
	・体育を選択制にする。	・人によっては運動は辛いから。
	・理科の授業はいらない。	・社会には必要ないと思うから。
	・数学と英語の時間を減らす。 ・5、6時間目に社会を置かない。	・めんどくさい。 ・眠くなるから。
内容 (活動・体験)	・ゲーム(楽しい遊びなど)を取り入れる。(複数)	・一方的に話されても、頭に入ってこなくてぼーっとしてしまうから。 ・話して授業をするよりも楽しんで授業をした方が集中しやすく身に入りやすいから。
	・体験的な授業	・体で覚える、忘れにくい。
	・アクティビティを増やす。	・授業を楽しく受けられるから。
	・アウトプットを全面的にする授業を増やす。	・聞くだけだと飽きるから。
	・教科書に出てきたものの実物を見る。	・実際に見ることで理解を深めるため。
	・校外学習をする、増やす。	・楽しく授業が受けられる。 ・話を聞くだけよりも、実際に見て体験するほうがいい(分かりやすくなる)と思うから。
	・校外活動を増やす。 ・課外授業を作ってほしい。	・校外活動で視野を広げる。 ・もっと外に出て日の光を浴びることでやる気を出すため。
内容 (生徒の主体性)	・ゴールだけ決めて生徒だけで調べたりする。	・自分たちでやると頭に入る。あとクラスの人と仲良くなれる。
	・自分が興味のあることを自由に調べられる授業	・モチベーションにも繋がるし探求心が高められる。
	・自習や、自分たちで考える授業を増やす。	・自分のもっとやりたいことや自分の深めたい学習を自分のペースでできるから。テスト勉強とかする時に使える！
	・先生が教えるのみではなく生徒自身で授業を作る。	・聞くだけの事が多い授業は生徒にとっても苦痛であるため。
	・先生ではなく生徒が授業をする。	・生徒がどのように考えているのか共有できるから。
	・先生のいない授業	・しっかりと頭を自分で鍛える。

内訳	アイデア（意見）	理由
内容 (意見の 共有・ 協働の 工夫)	・話し合いやグループワークを増やす。（複数）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いをすることで自然と交流関係が生まれ、意見が言いやすくなる。</li> <li>・色々な意見を出し合える。</li> <li>・いろんな人の考えが出てくるから。考えを深めるため。</li> <li>・眠くなるから発言回数を増やすため。</li> <li>・にぎやかに授業をしたい。</li> <li>・仲間と協力して元気のいい学校生活を送れると思ったから。</li> <li>・寝る人がいるし、みんなで話し合ったほうがわかることが多いから。</li> </ul>
	・紙だけに書く授業をやめる。	・一人でやっているだけだからみんなで授業をしたいから。
	・生徒それぞれ発言できる場を設ける。	・意見をみんなに共有できるから。
	・挙手して発言する人が少ないから、タブレットを使ったりして匿名で意見を発言できるようにする。	・普段あまり意見を出せない人を減らし、誰でも意見を出しやすくする。
	・タブレットを使って意見を共有する。	・意見を言いにくい人がいるから。
	・身代わり人形を置く。	・授業中に言いづらい雰囲気があるから、それがなくなるから。
	・話し合いでみんなが発言できる雰囲気にする。	・恥ずかしがる人がいるから。
	・生徒の意見を取り入れてほしい。	・みんなの意見を聞きたいから。
	・他の人の意見を聞いていいと思った意見を言える時間が欲しい。	・他の人の意見がいいなど思ってもその人が意見を言わない時があるから。
	・班で意見を共有しあう時間をとり、紙に意見を書いて提出する。	・意見を言い出すのが苦手な人も意見が出せる。
	・疑問点を出し、みんなで教えあう、話し合う。	・それぞれでしっかりと内容を理解するため。
	・問題があるとき、友達と話し合う時間を作る。	・分からない人に教えたら分かるようになって、分からなかったらテストでいい点数を取れなくなってしまうから。
	・自習や授業の中で互いに教えあう時間を作る。	・教えあうことでみんなが理解できるようになるから。
	・プリントが終わって答え合わせの時、ほかの人が採点→先生が答えを配る→再度見直し	・交流って面もあるし、みんながどんな時に間違えるのかわかってテスト対策になるから。
	・班の活動を増やし、タブレット使用を減らす。	・喋ることで友達同士の意見を深めるため。
	・ワークショップをしたい。	・休憩が欲しいから。
	・友達でやる時間と1人でやる時間を分ける。	・喋ることで友達同士の意見を深めるため。
	・毎回同じ人とグループになるのではなく、くじ引きなどランダムになるものでグループを決める。色々な人と話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲がいい人ばかりでまとまっていたら一人だけの人が出てきている。</li> <li>・もっと幅広い人と仲良くなれ、もっといろいろな意見を取り入れられる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスごとではなく、学年内で混ぜて学ぶ日をつくる。</li> <li>・定期的にクラスを入れ替える。</li> </ul>	・他クラスとの交流を深める（意見を聞き入れられる）。
	・縦割りである一つの課題について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の意見が反映される。</li> <li>・自分の意見が言いやすい。タブレットが使えない人が不便なため。</li> </ul>

内訳	アイデア（意見）	理由
教員	・自分が選んだ先生の授業を受けられる（教科担任選択制）。（複数）	・人によって教え方が違う。 ・自分に合った先生から学びができる。 ・正直先生に相性があるので相性いい先生の授業を受けられたら勉強への意識が向上するし、関心が高まる。
	・もう少し分かりやすい授業	・ワークに沿って授業をやってほしい。
	・余裕をもって授業を進める。	・テスト範囲が終わるかどうかが心配になると焦るから。
	・教科担任が毎回変わるようにする。	・いろんな先生と交流を深めたいから。
	・教員の変更	・教員の質が悪いから。
	・1つの教科の先生を増やしてほしい。	・色々な先生に教えてもらいたい。
	・授業をしている先生の話が面白い。	・授業のやる気が出るから。
	・フレンドリーな先生がいい。	・厳しすぎると授業がつまらないと感じてしまうから。
	・先生の口調を優しく。	
	・間違いを否定ではなく、アイデアに（先生も）。	
	・先生にみんなを当ててもらう。	
	・先生を2人にする。	・内職を防ぐため。
	・教師の評価システム	・今の授業が理解できているか、知る機会があると思ったから。
	・授業中やっていない人や本を読んでいる人などは注意しなくていいと思う。	・将来もテストも成績も自己責任だという心を育てる。
休憩時間	・授業中に休憩の時間をとる。（複数）	・より集中できるから。 ・しっかりと休み脳味噌を整える時間が必要だから。 ・授業が50分だとずっと集中できないから。ノートの整理ができるから。
	・授業の時間を50分を25分と25分に分ける。	・その間に休憩をはさむことで集中力が高まる。
	・授業が20分経つごとにみんなで起立してジャンプ	・寝てる人がわかる、運動不足解消。
	・10分くらいの睡眠	・睡眠をとることで授業に集中できる。
移動教室	・移動教室をなくす。	・楽。移動するのが大変な人もいるから。 ・移動時間を授業に費やす（先生が移動する）。
復習	・習ったところまでの練習プリントが欲しい。	
現状維持	・今のままでいい。	・ルールを変えても、デメリット・メリットが結局両方あるから、今のままの授業の方法が一番いいと思ったから。
宿題	・宿題を1日ごとではなく1週間ごとにしてほしい。	
定期テスト	・テストは1日1教科にしてほしい。	・1日にテストは集中力が続かない。
	・テストを増やす。	・勉強を習慣化できる。
	・定期テストの回数を減らす（1年に2回）。	・テストが多すぎる。大変だから。
	・テストは受けたい人だけ受ける。	・もちろん受けなかったら評価はないけど、受けたくないのに受けさせるのはかわいそうだから。

内訳	アイデア（意見）	理由
定期 テスト	・テストをなくす。	・テスト勉強の時間がもったいない。勉強のやる気を上げるため。
その他	・飛び級制度を追加する。	・自分が分かるのをやっても意味ないから。得意なことをレベルアップできる。
	・参観日をなくす。	・親の目があると授業に集中できない。

## ワークショップ結果報告（軽井沢中学校）

### 1 実施概要

- (1) 目的：『私たちの学校』をつくるアンケート」の中学校の結果では、「友達と休憩したり交流したりできる場所」や「自分たちが楽しめる行事やイベント」等のように、新たな居場所や時間を求める意見が多く見られた。それらについて生徒自身が「カフェ」として企画立案し実現させる過程で、実行委員主体で全校で準備を進めることを通して『私たちの学校』づくり」を具現化していくことを目的とした。
- (2) テーマ：「全校のみんなでカフェをつくらう」
- (3) 実施日：令和7年12月10日（水）
- (4) 実施方法：全校生徒（約450人）を対象とし、以下の活動を行った。
- ・12月24日（水）に開催予定のカフェの目的や実行委員の思い等の説明（約5分）
  - ・Google フォームのアンケートへの回答（約5分）  
（カフェの内容についての意見、実行委員で提案したカフェの名称候補4つより1つを選んで投票）  
（アンケート内容の詳細は【資料2-6②】をご覧ください。）
  - ・カフェの装飾品を折り紙で制作（約15分）
- (5) 進行方法：準備を含め、カフェ実行委員主体で実施（事務局職員が補助）。全校放送にて全体進行を実施し、実行委員の指示のもと、各学級でアンケートへの回答や装飾品の制作を行った。

### 2 ワークショップを踏まえて

- (1) カフェの名称について  
アンケートの結果「よりみちカフェ」に決定。
- (2) カフェの内容について
- ・アンケートで、全校からは以下のような意見や質問が寄せられた（一部）。  
実行委員の計画についての共感、新たな内容の提案（カードゲームをしたい、本や漫画を置く等）、来場者の安全を守るための方法についての質問（食物アレルギーへの対応、防犯体制）  
（意見の一覧は【資料2-6③】をご覧ください。）
  - ・寄せられた意見をどのようにカフェに反映するかを実行委員会で検討。
- (3) カフェの装飾について  
全校で制作した装飾品でカフェの飾りつけを行う。



当日の様子



当日の様子

### アンケート内容

- (1) 実行委員会の中では、カフェについて、例えば以下のような意見が出ています。
- ・ボードゲームができるようにしたい
  - ・飲食ができるようにしたい
  - ・クリスマスツリーを飾りたい
  - ・誰にも邪魔されない個室をつくりたい
- 実行委員の意見について、質問や意見があれば書いてください。
- (2) (1) 以外に、カフェでやりたいことや「こんなカフェになったらいいな」という意見があれば書いてください（できれば理由も）。
- (3) カフェの正式な名前を、全校の投票で決めたいと思います。  
実行委員で、下の4つに絞りました。名前にこめられた願いも参考に、一番いいと思うものを、1つ選んでください。
- ①USK (ユニバーサル・スタジオ・カルイザワ)
- ・ユニバーサルにいろいろな人と交流できるような場にしたいため。
  - ・某テーマパークのような、わくわくするインパクトのある名前のほうがたくさんの方が来てくれそう！
  - ・「Universal Studio Karuizawa」←英語がかっこいい
- ②圧倒的最強インフィニットアルティメットカフェ
- ・無限に楽しめる究極で最強のカフェにしたいのでこの名前を作った。
- ③よりみちカフェ
- ・だれでも入れる、通りかかっていつでも入れるという意味でつけました。
  - ・だれでも出入りできるカフェになってほしいです。
- ④チルカフェ
- ・長い名前にすると言いくかかったり覚えづらいから、「チルいカフェ」を省略して「チルカフェ」にしました。
  - ・気軽に色んな人と関わりを持ったり、リラックスして過ごすことができたり、他の人が不快にならずに気軽に楽しめたり「このカフェにまた来たいな」と思えるカフェになったらいいというのが願いです。リラックスして欲しいし、楽しんだり、誰でも気軽に入れるカフェであつたらいいなというものもあります。

### アンケート結果 ※ (1)・(2) の回答のみを集約して記載

(1) 実行委員会の中では、カフェについて、例えば以下のような意見が出ています。

- ・ボードゲームができるようにしたい
- ・飲食ができるようにしたい
- ・クリスマスツリーを飾りたい
- ・誰にも邪魔されない個室をつくりたい

実行委員の意見について、質問や意見があれば書いてください。

<質問>

- ・カフェの時間帯や会場、利用方法
- ・内容の実現性（全般、特に飲食）
- ・実施に関わる費用や準備（誰が負担・実施するのか）
- ・内容の自由度（どこまでの自由度があるか、学校生活に与える影響）
- ・宣伝の方法
- ・来場者の安全を守るための方法（食物アレルギーへの対応、防犯体制）
- ・会場の清掃の方法

<意見>

- ・実行委員の計画についての共感（色んなことができそうで良い、とても良い案だと思うので実行してほしい、ボードゲームや個室のアイデアが良い等）
- ・飲食関係（生徒が作ったものを売り出してほしい、コーヒーが飲みたい等）
- ・クリスマスツリー関係（クリスマスツリー以外にも季節に合わせた装飾をすると良い、みんなで装飾をしたい等）
- ・個室関係（安全上中の様子が見られた方が良い、誰にも邪魔されない個室だと交流ができないのではないかと、交流できる場所と分けて設置してほしい等）
- ・使用ルール関係（限度を守る、迷惑を掛ける人への対策、声の大きさ等）

(2) (1) 以外に、カフェでやりたいことや「こんなカフェになったらいいな」という意見があれば書いてください（できれば理由も）。

- ・雰囲気づくり関係（気軽に行ける、賑やか、ゆっくり落ち着きたい、皆が納得いく、年齢関係なく楽しめる、嫌な思いをする人がいない、何かあった時に逃げ込める、小さい子の遊び場等）
- ・交流関係（皆で交流できる場を作る、学年関係なく交流できる、趣味が合う他学年や地域の人と仲良く交流できる、みんなでお菓子づくりやイベントをする等）
- ・音楽関係（雰囲気が良くなるのでBGMを流してほしい、ゆったりできる音楽やクラシックが流れると良い等）
- ・備品関係（クッションやソファでゆっくりしたい、弾き語り等ができるようにギターやピアノを置く、本や漫画を置く、電動雀卓を置く等）
- ・ゲーム関係（カードゲームをしたい、ゲームをしたい等）
- ・その他（寝転がったり眠ったりしたい、スポーツをしたい、動物で癒される空間が良い、自習をしたい、動画や映画が見られると良い等）

## 『私たちの学校』づくり」ワークショップ結果報告

### 1 実施概要

- (1) 実施日 : 令和 7 年 7 月 8 日（火） ※今後も数回実施予定
- (2) 参加者 : 小中保護者 16 名、児童生徒 3 名、学校関係者等 5 名  
その他事務局 13 名
- (3) 実施方法 : 参加された保護者、児童生徒を 2 グループに分け、テーマに沿って話し合いを実施。  
最後、出た意見をファシリテーターが集約し、全体で共有。
- (4) 進行方法 : 自己紹介とアイスブレイク実施後、テーマに沿って話し合い。  
当初 3 つのテーマを準備し、それぞれについて話していただく予定だったが、自己紹介後それぞれのグループから出た意見や質問が、用意したテーマの 1 つに関わる内容であったため、そのテーマのみで話し合った。
- (5) テーマ : 今ある学校や、「軽井沢オープンドアスクール（仮称）」に求めること  
(こんな学校だったら通いたい、通いやすい)

### 2 当日の意見

当日の意見については、次ページの意見一覧をご覧ください。



実際の様子

## 【資料 2 - 7 ②】

### 意見一覧

項目	内訳	意見
生徒募集	スクールコンセプト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ どういう学校を作っていくというように考えているのかを知りたい。</li> </ul>
	入学の条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 募集要項などはあるのか。どういう子ならいいのか、定員なども何人くらいなのか。希望したら入れるのか。</li> <li>・ 診断名や受給者証が必要等、入学の条件を知りたい。</li> <li>・ 学びの多様化学校と聞くと「みんなが通っていい」という認識もできる。言葉だけ聞くと、診断がなくても、不登校でなくても、通えるように感じる。</li> <li>・ 診断書がなくても支援級に入れる自治体もある。診断書がオープンドアの利用条件になるのはどうなのだろうか？</li> <li>・ 診断とってもメリットはない。すべての子どもに優しい学校であってほしい。</li> <li>・ 町の学校として作ろうとしているが、学区はどうなるか。近隣の市町村はどのように対応していくのか。</li> </ul>
	教育支援センターとの相違点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育支援センターとの違いは何か。入学から在籍がそこになるのか。</li> </ul>
学習	日課・教育課程全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ うちの子は起立性調節障害で、とにかく朝に弱い。学校に通うには、昼と夜の間が良かったりもする。その日によって登校時間が変わってもよい学校だと通いやすい。</li> <li>・ フレックスタイム制を取り入れたらどうか。学校生活のうちから、早めにそういった制度を体感させてあげられると良いのではないか。</li> <li>・ 中2～高3まで起立性調整障害。先生がとてもいい先生で、配慮してくれていたのが通うことができていた。軽高は単位制なので、単位さえとればいいのが助かった。今年の春に就職し、今は症状が出ていない。こういった子も見落とさないでほしい。</li> </ul>
	手段	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゲームで学校に行けたら（メタバース）行きやすい。</li> <li>・ 自分の子が、完全不登校になった際、オンラインでは学校と繋がれた。オンラインなども検討した方がいいのではないか。</li> <li>・ フリースクールも行ったが、学習に関しては自分の居場所ではないと言っていた。中学生になったが、午前中は体調が悪く学校に行けない時もある。こういう子のためにもオンラインなど考えてほしい。またオンラインであれば教室ではなく、別室で授業を受けることもできる。学校が良くても行くことができない、場所に入れられないという子もいるのでぜひ考えていただきたい。</li> </ul>
	内容（個別最適への対応）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海外のように柔軟に対応していけるといいのではないか（飛び級⇄下の学年に下がって等）。子どもは一斉に成長しているわけではないので、その子にあった指導を検討していく必要がある。</li> <li>・ 理解力が高い子もいると思われるので、学習もどのようにしていくか検討が必要ではないか。</li> </ul>
	内容（生徒の主体性）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 座学ではなく、体験型だと参加しやすい。</li> <li>・ やることが決められていることが辛いと感じている。提案してくれるのはありがたいが、興味を持てなければやりたくない。ある程度の規則や制限は必要だが、制限と自由が半々くらいだと通いやすい。</li> <li>・ うちの子はよく「こっちは教えてくれと頼んでない！」と言っている。</li> <li>・ 勉強はやりたければやればよいくらいの雰囲気があり、生きていく力をメインで学んでいけると良いのではないか。うちの子は家庭のそういった環境で過ごす中で、自然と「算数をやってみたい」と自発的に取り組むようになった。</li> </ul>

項目	内訳	意見
生活	異年齢との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>主に過ごす集団が同学年であるため、比較されることが多い。インドネシアの学校は、クラスが低学年と高学年で分けられているだけで、異年齢の環境でやりたい学びに取り組んでいた。</li> </ul>
	校内のルール	<ul style="list-style-type: none"> <li>校則ややり方が細かく、疲れてしまう。</li> </ul>
教員	全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学びの多様化学校」ができることは素敵なことだとは思いますが、先生(スタッフ)の働き方も考慮いただきたい。ボランティアなどの関わりも必要なのではないかと。期待と不安がある。</li> <li>様々な子が来るとなるとスペシャリストの先生を呼んだりしないといけないのではないかと。そのようなところを整えないと大変なのではないかと。</li> </ul>
	生徒との関わり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生が怒鳴っているのを見て怖くなり、クラスにいられず不登校になった。喋らないが、みんなと一緒にいたいと思っているようだ。</li> <li>中学生になったからこうなさいっていうのは変だし、戸惑った。それなら小学校から話をしてほしい。先生の生徒への接し方や言葉遣いが小学校と中学校と違って驚いた。</li> <li>中学生になると急にハードルが上がる。対応が大人対応になり、小学校まで一緒に考えてくれたのが自分で考えよう変わる。自分の意見を言うように言われても言えない。年齢ではなくその子自身を見て対応をお願いしたい。</li> </ul>
相談体制	保護者から学校へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭にも学校から、不安ごとを解消できるような介入など、アプローチしてほしい。</li> <li>不登校について、家族以外の人へも話す機会がほしい。第三者がよき理解者になってもらえると、親のメンタルヘルスにとっていい。</li> </ul>
	保護者間	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の横のつながりがほしい。</li> </ul>
学校全体	居心地の良い空間	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間が区切られていることが苦痛になる子もいる。また、一人になりたくても、みんながいる場所で過ごすことを強いられ、そこを離れる場合には許可が必要となる。指定された場所ではなく、自分がいたい場所で、リラックスできると、帰宅時のわが子の表情も今とは違うと思う。エネルギーを残して笑顔でお家に帰ってこられる学校であってほしい。</li> <li>親としては、子どもの安心・安全を確保してくれる環境に預けられるだけでも十分ありがたい。特別で優れたカリキュラムよりも、しやすい空間があってほしい。</li> </ul>
	同調圧力からの脱却	<ul style="list-style-type: none"> <li>うちの子は、当たり前なこと(登校)が当たり前でできていないことへの罪悪感をかかえている(登校しないことで誰かに迷惑をかけているという意識もある)。そのため、学校を休んだ日に外出する際、子どもがコソコソしている。親も一緒にコソコソしなくてはならない。休んだ日に何をしてもコソコソしなくてよい学校が良い。みんながいる場所にいることが良いことで、いないことが悪いこと。そのようなとらえ方をされない学校が良い。</li> </ul>
	自立に向けた学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>「行きなさい」と言うのをやめ、仕事もやめた。それにより親子で過ごす時間が多くとれるようになったら、うちの子は荒れなくなった。学力より生きるすべを学ばせている。自立できるための学び(衣食住の確保、ヘルプの出し方等)を得られる学校であると良い。</li> <li>比較される、評価のための学びではなく、生きるための活きた学びができるとうい。また、日本の学校は決められていることが多く、時間割もタイト。スローペースの子にとっては学ぶ前から疲れてしまう環境である。</li> <li>社会を学べる場であると良い。将来を見据えて「こういう大人になっていけばいいな」、「こういう環境で働きたいな」と具体的なイメージが持たせてあげたい。</li> </ul>

項目	内訳	意見
学校全体	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学力の評価をされる場だと辛い。スポーツが得意だが、文武両道を求められると、スポーツもあきらめなければいけないことがある。</li> <li>• 環境はハード面、ソフト面でどちらも充実していることが大切。人との縁も大切。選択肢を狭めないように。</li> <li>• いろいろな子がいるので、みんなにいい学校というのは難しいのではないか。</li> </ul>
卒業後	進路	<ul style="list-style-type: none"> <li>• オープンドアスクールに通った子の出口はどのようになっていくのか。</li> </ul>
その他	既存校での対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 既存校についてはどのように考えていくのか。並行して考え整えていかないとみんなオープンドアに通いたくなるかもしれない。</li> <li>• 今いる先生を大切にしながら、今の環境の整備を柔軟にしてもらった方がいい。マンパワーが必要であれば、ボランティアなども募ってほしい。</li> </ul>

## ワークショップ結果報告（こどもだけワークショップ）

### 1 実施概要

- (1) 実施日：令和 7 年 8 月 22 日（金） ※今後も数回実施予定
- (2) 実施方法：教育支援センターにて実施。  
職員が事前に選考した下記のテーマをルーレットにいれ、でたテーマに沿って意見交換・共有を行った。
- (3) テーマ：アンケート等の結果より、下記の通り選定  
学校ってどんなところ、友達関係、時間割の希望、今の学校への意見、こんな学校だったら通いやすい、中学校でやってみたいこと、教育支援センターってどんなところ？
- (4) 進行方法：ルーレットを子どもたちが回し、出たテーマについて意見交換・共有を行った。  
意見については、メインファシリテーターの小林、堀本が、それぞれの意見を聞きつつ、深堀したいところについてはクローズドクエスションにて聞き取りを行った。
- (5) 参加者：合計 6 名（うち 5 名は支援センター利用者）

### 2 話し合いの雰囲気・当日の意見

- (1) 雰囲気：お菓子や飲み物等を用意し、フランクな場づくりを意識したため、席を移動したり、姿勢を変えたりしつつ、自由に意見を言い合っていた。  
また、他の参加者の意見へ共感・触発された意見も出ていた。
- (2) 当日の意見：当日の意見については、次ページの意見一覧をご覧ください。



当日の様子

## 【資料 2 - 8 ②】

### 意見一覧（テーマについての発言をさらに細分化して表記）

項目	内訳	意見
学習	日課・教育課程全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝遅くて（登校して）、帰るのが（下校が）早いのがいい。</li> <li>・登校時間が9時ごろ。いつでも帰れるようにしてほしい。</li> <li>・午後3時ごろの下校がいい。</li> <li>・15:00～20:00とかは嫌だ。夜は嫌。放課後は友達と遊びたい。</li> <li>・時間割もだけど、1コマを45分程度にしてほしい。（授業が）長すぎて意識が飛んでしまう。</li> <li>・1時間目は遊ぶ時間がいい。ゆったり過ごしてから授業が始まってほしい……（体を動かす遊びとか）。1時間目からの算数はきつい。</li> <li>・昼の時間を長くしてほしい（配膳準備を除いて1時間にするか、配膳準備がない弁当にしてほしい）。</li> <li>・5時間目の前に、15分程度の仮眠時間がほしい。仮眠が苦手、または必要のない人は、静かに自由に過ごす時間でもいい。</li> <li>・5時間目の体育はきつい。5時間目は、ゆるい教科がいい。6時間目は、いらぬ。</li> <li>・幼稚園のように「遊びながら勉強する」という環境が良かった。この時間、頑張ったら遊べるみたいな。</li> <li>・全部（授業時数を）70時間がいい。残りの時間は自由な時間や読書の時間など。</li> <li>・せめて100越えの（各教科の授業時数を）90程度にしてほしい。</li> <li>・自分のための勉強だから、（このままの時数で）いいと思う。6時間授業は長いと思うけど。</li> <li>・数学は半分でいい。</li> </ul>
	手段	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バーチャルで通う学校（マイクラとかVRチャットとか）。家から出ないで済む。勉強はしたくない。</li> </ul>
	形態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ずっと「静かにしましょう」という感じではなく、静かな時間とざわざわの時間がどちらもあっていい。程よくざわざわ。うるさいのも嫌、静かすぎるのも嫌。</li> <li>・静かな時間の方が、僕はいいと思う。</li> <li>・話し合いの（授業）時間は、苦手（無理）。</li> </ul>
	内容（個別最適への対応）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の学習にしてほしい。個人の学力に合わせた進度。個別の学習計画があるといい。</li> <li>・個別の学習計画、自分で決めた時間割、1年間を通してやってもいい。</li> <li>・1週間前とか、半年前に時間割を選べる（単位制のような）。</li> </ul>
	内容（生徒の主体性）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図工は、自由に（工作、作成等）できないから嫌だ。「こうしろ」という指示や「こんな風に作成するといい。」と指示されることが多い。</li> <li>・図工はマシ。設計図描きながらやるのがめんどくさい。</li> <li>・（図工室などに）もっといろんな機械があるといい。工作は嫌いじゃない。自分の好きなものを作りたい。</li> </ul>
	内容（特定の教科）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まる1日美術だけの日がほしい。</li> </ul>
	宿題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期休みに宿題なしがいい。</li> </ul>

項目	内訳	意見
生活	動線	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（校舎の）作りが簡単な学校がいい。教室や各部屋に行く道が複雑だと覚えられない。</li> <li>・特別支援学級の教室に入るまで、在籍クラスや学年のクラスの前を通過して自分の教室まで行かないといけないので、教室にいる生徒からの視線が嫌。登校したときに声をかけられるのも嫌。</li> </ul>
	匂いへの対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校のにおいが嫌。トイレのにおいが嫌。古いカビ？木の腐ったにおい？で頭が痛くなる。においを消してほしい。</li> </ul>
	水分補給	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水道は蛇口を共有することに（強い）抵抗がある。ウォーターサーバーを設置してほしい。きれいな水もそうだが、冬にお湯が飲めるといふ点でもいい（役場1階のサーバーのイメージ）。</li> <li>・蛇口からみんな水を飲んでいる。自分は飲むのが嫌。口を蛇口につけている子がいて、それを見て水道から水を飲みたくなかった。</li> <li>・お金がかかるから、公民館の自販機のようなものじゃなくていい。</li> </ul>
	新たな空間や備品の要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の中で駄菓子屋みたいなのがあるといい。頑張ったらもらえるチケットでお菓子と交換できるのもいい。</li> <li>・頑張ったら頑張ったことに対して、報酬がほしい（商品券や物などでもいい。お菓子の交換でもいい）。</li> <li>・休憩スペースがほしい。暗い所や寝られるところ。保健室とは別の部屋がいい。仮眠スペースがほしい。</li> <li>・ベッドやふわふわしたスペースがほしい。</li> <li>・カーテンや仕切りのある部屋。一人になれるスペース（「使用中」などの札があるといい）。</li> <li>・自習室があるといい。</li> <li>・自習室でイヤホン等を使って、音楽を聴きながら勉強してもいい時間があるといい。</li> <li>・（勉強するときに、空き教室があつて）「この時間はこの場所を自由に使っていい」にしてほしい。</li> <li>・多目的トイレがほしい。</li> <li>・エレベーターやエスカレーターも、子供だって使いたい。</li> <li>・時間になったら起こしてくれるベッドがほしい。</li> </ul>
	人間関係全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（学校の友達関係は）良好。友達関係は、今のままがいい。だから新しい学校に移動するのは、今の友達に申し訳ない。</li> <li>・新しい環境になるにあたり（中学校へ進学したとき）、友達が（クラスに）いるのか不安（不安があった）。</li> <li>・知らない人との関わりが増えることに、不安がある。</li> <li>・友達関係は気にしていない。誰と同じクラスになりたいとかはない。</li> <li>・友達作りを間違えたら大変。「ぼっち」感覚は、嫌。</li> <li>・友達を一からつくるのがめんどくさい。仲良くしたい人だけ、仲良くしたい。</li> <li>・騒いでいる子がいると怖い。（学級内で）騒ぐ子の対応をしてほしい。</li> </ul>
	校内のルール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（授業中に）トイレに行くことを申告しなくてもいいようにしてほしい。</li> <li>・（授業中に）立ち歩いたり教室を出て行ったりしてもいいことにしてほしい（行き先は、先生に伝えて）。</li> <li>・制服だけの指定が嫌だ（私服も制服も選べるといい）。</li> </ul>

項目	内訳	意見
生活	給食	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食は嫌いなものが出る。弁当または給食の選択ができるといい。</li> <li>(配膳や給食時の) エプロンが嫌だ。忘れたときに悪目立ちする。</li> <li>教室で給食を食べなければいけないというのが嫌だ。自分の好きな所で食べたい。</li> <li>みんなで準備しないとイケないのが嫌だ。購買みたいにお弁当の形で配布がいい。</li> </ul>
	行事	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化祭がただの合唱祭になっているのが嫌だ。体育祭、強制しないでほしい。</li> <li>行事 (ハロウィンパーティー、お楽しみ会、ゲーム大会、マリカー大会、中学校にある大きなTVを集めて、みんなでマリカーをしてみたい。)</li> <li>中学校になると、小学校でクラスごとに行っていたお楽しみ会がなくなる……。中学校でもクラス単位で「お楽しみ会」的なことをやりたい。</li> <li>講演会 (進路指導みたいな) は、子どもから興味関心のある職業を聞き取り、その道のプロや一流の人から話を聞きたい (例えば有名な声優さんとか)。今の講演会はつまらない。</li> <li>自分たちが観戦したいスポーツをグループに分かれて (遠足として?) 観に行く。</li> <li>授業参観が嫌だ。</li> </ul>
	行事以外の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>モーター使って電車とか作りたい。鉄道模型があつてそれで遊べる学校がいい。</li> </ul>
教員	全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の中で先生でもなく生徒でもない、話す相手がほしい (例えば、ゲームのこと等)。</li> </ul>
	生徒との関わり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校という場所で、先生だから、学校だから、従わなければいけないという意識がある。大人だからということではない。</li> <li>先生によっては、話が入ってこない先生もいる。</li> <li>教えてもらう先生を選べるようにしてくれたら最高。途中交代もあり。</li> <li>みんなの前で怒られるのは嫌だ。それで不登校になったといっても過言ではない。</li> <li>上から視線とか人の前で怒るとか、(先生を) 情けないなと思う。</li> <li>大きい声で怒られるのも、無言の圧力をかけてくる怒り方も嫌だ。でも、怒らないのも嫌だ。</li> <li>悪いことははっきりと言ってほしい。遠回しの言い方は、嫌だ。</li> <li>大きな声で怒ったり圧をかけたりするのではなく、理由や考えを聴き、頭ごなしに怒らない。こうすればよかったね、次はこうしようというように (カードなどで目で見てわかるように) 教えてほしい (支援級の先生はしてくれた)。</li> <li>個別に個室で叱ってほしい。叱り方も手順をふんで (問いかけながら) 叱ってほしい。</li> <li>連帯責任が嫌だ。</li> <li>人間的な先生じゃない先生は嫌だ (人間性のない人や人権感覚のない先生は嫌だ)。</li> </ul>
相談体制	生徒から学校へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校に (相談やお願いを) 言っても何も改善されない。</li> </ul>
その他	休日	<ul style="list-style-type: none"> <li>月曜日は学校はない方がいい。</li> </ul>

## 『私たちの学校』づくり」経過報告（軽井沢中部小学校）

### 1 実施概要

- (1) 経 緯 : 「私たちの学校」をつくるアンケートの結果を今後の学校生活にどのように生かしていくかを、児童会役員と校長でランチミーティングを実施し検討した。  
「新しいイベントや、みんなが笑顔でいられるイベントが欲しい」という意見が多く出されたことを踏まえ、児童会役員が開校70周年記念イベントの一環として企画し、実施することになった。
- (2) 実 施 日 : 10月6日（月）3時間目
- (3) 実施方法 : 全校一斉に、1年生～6年生の縦割り班（4～8人）で実施。  
（全校児童519人）
- (4) 内 容 : 「学校宝探し」  
学校の中から歴史を感じられるものに宝のマークをつける。  
代表職員は隠れる。  
縦割り班で宝と職員を探す。  
見つけたら体育館で待機している児童会役員に報告しに行く。
- (5) 進行方法 : 全校放送にて全体進行及び導入とまとめを実施。  
体育館と各教室をオンラインでつなぎ、導入を視聴した後、縦割り班で行動。  
まとめは校内で適宜視聴。

### 2 今後に向けて

ランチミーティングを継続し、本イベントの振り返りを行いながら新たなイベントやワークショップを計画していく。



当日の様子



当日の様子

### 『私たちの学校』づくり」経過報告 (軽井沢中部小学校「児童会祭り」)

#### 1 実施概要

- (1) 経緯 : 「私たちの学校」をつくるアンケートの結果を踏まえ、児童会役員が企画・実施した開校70周年記念イベント「全校宝探し」(第5回設置準備会議で報告済)では、役員から多くの反省が出された。それらを踏まえ、児童会役員が「児童会祭り」を企画・実施した。
- (2) テーマ : 「目指せ学校マスター～一人一人の笑顔のために～」
- (3) 実施日 : 12月10日(水) 1～3時間目
- (4) 実施方法 : 全校一斉に、1年生～6年生の縦割り班(4～8人)で実施。  
(全校児童518人)
- (5) 内容 : 各委員会が校内各所にブースを設ける。会全体を前半と後半に分け、4～6年生が交代でブースを運営する。  
縦割り班でブースを回る。  
各ブースにはキーワードがあり、集めたキーワードをつなぐと文章になる。
- (6) 進行方法 : 開会行事と閉会行事は体育館で実施し、児童会役員が進行。  
前半・後半それぞれの開始と終了は全校放送にて連絡。

#### 2 児童会役員の感想(一部)

- (1) 「全校宝探し」の反省をどのように生かしたか
  - ・迷子がすごく多く、あまり遊べなかった子もいた。なので、今回は手をつないだり、スタートの際全員揃っているかをチェックしたりしたほか、全員揃っていないとブースに入れないようにした。
  - ・「全校宝探し」の時の反省ではないけど、運動会の際にシナリオの練習をあまりしていなくてバタバタになっちゃったから、しっかり練習して覚えた。
- (2) 当日実施しての感想
  - ・迷子が格段に減った。すごくやりやすかったし、運営側として余裕ができた。
  - ・開会行事と閉会行事がスムーズにできた。
  - ・セリフもシナリオをほとんど見ずに分かるように成長した。
  - ・開会行事と閉会行事のどちらもセリフをしっかり覚えて、間違えずに良い発表ができて良かった。
  - ・みんな楽しめたと思う。楽しい企画を実行できた!!
  - ・無事、児童会祭りが成功して良かった。

## 『私たちの学校』づくり」経過報告 (軽井沢中学校「よりみちカフェ」)

### 1 実施概要

- (1) 経緯：『私たちの学校』をつくるアンケート」の中学校の結果では、「友達と休憩したり交流したりできる場所」や「自分たちが楽しめる行事やイベント」等のように、新たな居場所や時間を求める意見が多く見られた。それらについて、PTAや地域住民、町教育委員会の協力を得ながら、生徒自身が「カフェ」として企画立案し実現させることを通して、生徒の自己肯定感を高め、学校・PTA・地域の交流の場をつくることとした。
- (2) 運営主体：実行委員生徒（1～3学年 30名）  
教員（教頭、オープンドアスクール担当）
- (3) 運営協力：PTA本会役員、地域住民数名、町教育委員会
- (4) 推進日程

11月4日（火）	中学校教職員に提案
11月5日（水）	生徒の実行委員の募集開始
11月11日（火） ～12月23日（火）	生徒・教員での実行委員会（計11回実施） <実行委員会の内容> ・実行委員会組織体制、当日の実施内容、時間帯、会場、カフェの名称検討の手法の決定 ・各係での準備
12月10日（水）	実行委員主体で、全校を対象としたワークショップ実施 カフェの名称を「よりみちカフェ」に決定 (詳細：【資料2－6】参照)
12月17日（水）	教職員、PTAや地域住民、町教育委員会への説明及び協力依頼
12月24日（水）	カフェ当日

### 2 12月24日（水）実施詳細

- (1) 日時：12月24日（水）15:30～16:30
- (2) 場所：軽井沢中学校多目的室及び隣接するテラス
- (3) 内容：6つのブースを設け、来場者に自由に立ち寄ってもらう。  
<ブースの内容>  
・ボードゲームやカードゲームによる交流 ・飲料の提供  
・お菓子の提供 ・ぬいぐるみとの触れ合い  
・漫画やアニメ、音楽の提供 ・個室の提供
- (4) 参加人数：中学校生徒約100～150名 中学校教職員約35名  
保護者、地域住民等約40名

## (5) 当日の様子



## 3 感想・反省（一部）

### (1) 実行委員生徒

- ・自分たちが考えたこと、提案したことで学校全体の人、地域の方、PTA・保護者の方等が楽しめているように見え、やりがいを感じた。
- ・個室が良かったという感想が聞けて良かった。
- ・このカフェの企画、これまでの学校生活と違って新しい友達の一面が見られてとても嬉しかったし楽しかった。教育委員会や先生方、協力してくれた皆様にとっても感謝している。

### (2) 来場者（生徒）

- ・他学年や先生とカードゲームができたのが良かった。
- ・お菓子だけ持って帰る人がいたから楽しい企画が欲しい。

### (3) 来場者（PTA、地域住民等）

- ・とても良い取り組みだと感じた。子供たちのリラックスした姿が印象的だった。家での思春期らしい顔、学校での緊張した顔、その2つ以外の顔が見られたように思う。短い時間だったが、楽しめた。この時間のために子供たちが頑張って企画して、大盛況だったと思う。今後どのような形で継続されるか楽しみ。子供たちから発信であれば、保護者は協力してくれると思うので、この形で頑張っていってほしい。

### (4) 教職員（運営主体含む）

- ・実施時期については検討の余地がある。受験を控えた3年生にとって果たして適切だったか。保護者からも「今なのか」との声があった。
- ・予算（財源）の確保、PTAの関わり方、広報、教職員への説明等、今後に向けた課題が多くある。

## 4 今後に向けて

よりみちカフェが持続可能なものとなるよう、今回の反省や課題を踏まえ実施時期や運営方法等を検討する。

今後、学校に行きづらい生徒の居場所にもなりうるよう、軽井沢オープンドアスクール（仮称）とも連携しながら運営方法を検討する。

# 【資料3-1】

## 「軽井沢オープンドアスクール（仮称）スクールコンセプト」に関する意見・質問と事務局対応

(※黒字は第1回～第4回、赤字は第5回設置準備会議でいただいたご意見)

R8. 1. 28時点

項目	内容	委員の皆様からの意見・質問	事務局の対応
1 設置形態	・軽井沢町立軽井沢中学校の分校として設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分校の場合、校長、事務職員、用務が本校との兼務になるが、勤務時間の関係で難しい。そのため、単独校で良いのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校型と分校型の違いを再度整理し、最終的な設置形態を決定していく。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校型もしくは分校型の、義務教育学校型が良いのではないか。小学校と中学校どちらの教員もいるため、色々なニーズを持った児童生徒に対応できる。不登校の児童生徒数の割合が全国と比較して大きいので、小学校段階からオープンドアスクールで学べるようし、多様な大人とともに学べるのは良い効果が生まれると思う。</li> <li>・小学生が同じ校舎の中で学ぶ中学生の姿を見て、中学校の年齢になったら学びの多様化学校に通おうと思う。中学に入り卒業したら、同じ学びの多様化学校のある校舎の中で、居場所に通いながらオンラインで通信教育を受けながら高校卒業する。中学校の前後の場をつくることで、学びを継続して大学に行く、あるいは自立するという形もあるのでは。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点では中学校のみを設置し、今後の状況によって他校種についても検討していく。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・軽井沢中学校の分校だと、本校（軽井沢中学校）の理念を引き継ぐことになるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分校として設置する場合は、基本的な理念や教育課程は必ずしも本校と同じである必要はないと考えている。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・軽井沢高等学校との連携型中高一貫校の場合、オープンドアスクールを卒業した生徒の高校での受け皿はどうか。生徒が教室に入れない場合を考慮し、特別なコースを設けるのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町の認識としては、軽井沢高等学校は単位制高校であり、特別なコースは設けなくても不登校を経験した生徒が在籍して学ぶことができると考えている。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・分校型ではなく、本校型にできないのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「『私たちの学校』づくり」は、オープンドアスクールの設置と、既存の学校のさらなる魅力化を並行して行う取組である。それにより、最終的には既存の学校で不登校の児童生徒数が減少し、オープンドアスクールから「学びの多様化学校コース」がなくなることが望ましいため、分校型での設置を考えている。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携型中高一貫校の場合、高校入試の際の調査書が不要であることは、入試で有利になるのか。それともやはり入試の壁は厚いのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育法施行規則では、連携型高等学校の入試は、連携型中学校の生徒の場合、調査書及び学力検査の成績以外の資料により行うことができると定めている。選抜方法は、例えば愛知県では個人面接等によるとしている。</li> </ul>

項目	内容	委員の皆様からの意見・質問	事務局の対応
2 対象生徒	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な事情で学校への登校が困難な生徒（不登校の子どもたち）→ 軽井沢中学校在籍者（又は在籍予定者）を想定</li> <li>学齢経過者のうち、さまざまな理由により中学校で十分に学ぶことができなかった方</li> <li>日本の中学校にあたる教育を十分に受けていない外国籍又は外国由来の方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公立の学びの多様化学校については、設置自治体外からの通学ができない。軽井沢町ではどのように考えているか（スクールバスの運行も含めて）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学びの多様化学校に通学する生徒は、現時点では町内の中学生のみを想定している。ただし、併設する夜間中学については、近隣の市町村からの受け入れも視野に入れ検討していく。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>近隣エリア等から移住して転入する方が増える可能性もあり、軽井沢町に今いる児童生徒の選択肢になるか不安である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現時点では、基本的には町立小中学校に在籍している児童生徒を対象として考えている。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>対象生徒の表記方法について、「学齢経過者のうち、さまざまな理由により小中学校で十分に学ぶことができなかった方」のように検討いただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>そのように表記を変更する。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>オープンドアスクールと教育支援センターが協力してサポートできる体制を整えるのがいいのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜間中学コース（仮称）への現役中学生の受け入れを含め、オープンドアスクールと教育支援センターが同じ理念のもと児童生徒をサポートしていけるようにする。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>京都市立洛友中学校は昼間部と夜間部の交流ありきでやっている。町内だけの募集ではなく、隣接する市町村との覚書の締結を県が主導してほしい。また、三豊市立高瀬中学校は隣接する徳島県から通学している生徒もいる。保護者にも協力してもらい、できれば県外も含めて生徒を募集したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜間中学コース（仮称）については、軽井沢町だけでなく近隣市町村への広域化も想定している。</li> </ul>
3 設置場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>町内の既存公共施設（必要な範囲で改修等を行い使用）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒がまた登校したいと思えるよう、大規模な改修が必要と思われる。例えば風越公園オリンピック記念館を少し改修すれば、運動場も体育館も風越公園にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒にとってより良い学びの場となるよう、改修等の環境整備を行っていく。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>チャイムや先輩の存在等が、オープンドアスクールに登校する生徒にとってどう影響するのかは十分検討する必要がある。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>候補地は、資料に記載の3か所だけか。増える余地はあるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>候補地は、軽井沢高等学校で考えている。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>予算も含め、将来を設計しやすい場所を選んでいただきたい。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>軽井沢中学校が素敵な環境なので、同程度の環境を準備いただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>改修により必要な環境整備を行うとともに、開校後も、生徒の意見を反映しながら改修等を行っていく。生徒自身で学びの場をつくっていくことを大切にする。</li> <li>生徒の学びの場所は校内に限らず、町内の豊かな自然、歴史、文化、人材等を活用していきたい。新設教科「ネイチャータイム（仮称）」等で校外学習も取り入れる。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>音を出す活動が好きな子どももいるため、音を出すことができる環境をつくってほしい。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>発達に特性のある生徒のためにも、プレイパークのような、思いっきり遊べる空間が必要なのではないか。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>校庭で焚火をすること等ができる環境か。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>台所をつくるなど、食事をつくる活動が実施できる施設がいいのではないか。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>職員が生徒について語り合える場所は、職員室以外に設置できるか。</li> </ul>			

項目	内容	委員の皆様からの意見・質問	事務局の対応		
3 設置場所	・町内の既存公共施設（必要な範囲で改修等を行い使用）	・軽井沢高校に設置する場合、通常通り高校が運営している中に間借りをするという事か。	・独立した北校舎棟の大部分を利用する。児童生徒の声を聞きながら、改修により必要な環境整備を行うとともに、開校後も、生徒の意見を反映しながら改修等を行っていく。		
		・軽井沢高校に設置する場合、北校舎を独占できるのか。また、その場合、どの程度改修可能か。			
		・どんな環境なら通いやすいか、子どもたちの声を聞くのが良いのではないか。			
				・給食はないとのことだが、給食だけが栄養源という生徒もいる。学生食堂は利用できないか。	・軽井沢高等学校には学生食堂がないため、利用はできないが、個別の状況に応じ、困る生徒がいらないよう検討していく。
				・オープンドアスクールにはどんな生徒が集い、どんな学びをするのかなどについて、軽井沢高等学校の教職員の研修や準備をお願いしたい。	・高校とも連携し、検討していく。
				・今年1月に横浜市に開校する横浜きりん学園（私立の義務教育学校で学びの多様化学校）がある。既存の中学校の校舎を改修して快適にしている。機会があれば見学できると良いのではないか。	・検討していく。
				・学校の中に学校を設置することで、学校に行きづらくなったり学校の仕組みに合わなかったりする生徒の学びをどのようにして一人残らず保障するかという心配がある。教育支援センターや民間施設との連携を考えていく必要がある。	・教育支援センターとは当然連携していく。民間施設との連携や協働も進めていく。オープンドアスクールでは、教員だけでなく相談員や支援員等多様なスタッフが生徒の学びを支えていけるようにする。
		・高校に協力していただき、チャイムの音等、学びを変えていくことを一緒にできると良いのではないか。	・高校側と相談しながら検討していく。		
4 学びの姿	・自分のペースで学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習に関して、自分の好きなところからまずやりたい、自分のやり方で勉強したいという子どもたち（不登校の子どもたち）が来ているという事例がある。</li> <li>・学習のあり方をもう一度見直したほうが良い。教師主導で、本時のゴールや見通しが分からず、不安を感じている児童がいるということを感じている。</li> </ul>	・少人数で、個々の興味関心や習熟度に応じて学習を進めることを想定する。		

項目	内容	委員の皆様からの意見・質問	事務局の対応
4 学びの姿	・自分に合った時間帯で学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間中学が教育支援センターのような位置づけで現役の中学生に開かれている例もある（体験入学を経て、納得がいけば転籍となる）。それも視野に入れて設置準備を進めてはどうか。</li> <li>・現役の中学生が夜間中学に通えるようにする場合、在籍は原籍校とし、教育支援センターのような位置づけになっていくのか。そのような制度として考えていくのか、どこかで議論した方が良い。</li> <li>・NPO法人カタリバが足立区立第四中学校の夜間学級で現役中学生の不登校生徒の支援をしており、効果は実証されている。現役の中学生が通える可能性は残してもらいたい。三重県では学びの多様化学校と夜間中学それぞれに昼間部と夜間部両方を設置している。そこに教育支援センターのような機能を加えることで、フレキシブルなしくみになるのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご指摘のような点も参考に、学びの多様化学校と夜間中学の併設の利点を生かし、生徒にとってより自分に合った学びができるよう検討していく。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・働いている方にとって、夜間中学16:00登校は不可能である。登校時間を17:30に遅らせ、下校時間は公共交通機関のあるぎりぎりの時間にしてはどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間設定については、学びの多様化学校と夜間中学併設の利点を生かせるよう、先進事例や町内の実情を勘案し、引き続き検討していく。</li> </ul>

項目	内容	委員の皆様からの意見・質問	事務局の対応
5 生活の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありのままにいられる場所</li> <li>・安心できる居場所</li> <li>・くつろいだり遊んだりできる場所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の発達特性を取り除くことはできないが、環境を整えることはできる。どうしたらそういう生徒が通える環境になるかを、従来の枠にとらわれず考えていく必要がある（遅刻をとらないなど）。</li> <li>・子どもの居場所づくりを進めるなかで、子どもたちにどんな居場所がいかを聞いたときに出てくる答えと対応するようなアンケート結果である。</li> <li>・椅子や机、照明、靴等について、既存の学校とどう差別化していくかの細かな環境設定が必要。備品だけでなく教職員やルール（遅刻をとらない等）も含めた丁寧な制度設計が必要。</li> <li>・具体的な場面に身を置きながら、自分に合った環境を確かめたり、自分と他者の感覚が違うことを知る機会があったりすると、他者とどう共生するかの対話につながるのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の意見を取り入れながら、多様な人が年齢や国籍等を超えて学び合えるような環境を整備していく。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンドアスクールの売りをもう少し突き詰めていく必要がある。今のままでは少しイメージが湧きにくい。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、さまざまな手段で学校の概要やイメージを周知していく。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達に特性のある生徒が教室（校舎）を飛び出した時、どう対応していくのか。既存校で対応が上手くいっていないため教室飛び出しや不登校となっている可能性がある。今後既存校での知見はどのように生かされていくのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンドアスクールは、別紙【資料3-2】の「4 学びの姿」や「5 生活の姿」を実現することで飛び出すような状況はつくりたくないと考えている。もし飛び出しがあった場合は、別室でのクールダウン、教職員や町のスクールサポーター（SS）等により対応していく。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要なことは自分たちで話し合っで決定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールや校則はゼロベースで始めるべき。これだけはルールとして作って欲しいというところから始まらない限り、既存の学校と変わらない。</li> <li>・既存のルールや校則をなくすことはショックを伴う。それを想定しながらなくすことが大切では。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に関するルールや校則以外はない状態でスタートし、よりよい学校生活を送るために必要な事柄については、入学後に生徒と教職員で話し合っで決定していく形を考えていく。</li> </ul>

項目	内容	委員の皆様からの意見・質問	事務局の対応
6 教職員	<p>・ 展開される学びの姿や生徒の姿を保障できる教員、ともに学び成長できる教員、管理的だったり上から目線ではない教員（教員研修の充実）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生がみんなの前で怒ることが嫌だという児童生徒の意見が印象的である。教員が当たり前に行っていることも、教員と子どもたちの間には意識の差があることは気を付けたい。</li> <li>教員は「指導は一瞬で暴力に変わる」ことを自覚し、指導を捨て、環境をつくる必要がある。</li> <li>「指導」をやめ、どのように子どもたちを「支援」していかなければならないのかという視点も必要ではないか。</li> <li>設備や制度が良くても、働いている教職員の理解がないとうまくいかない。管理者も含めて、どういう教職員を配置するのが最も重要。</li> <li>校則は大人が子どもを管理する手段である。大人がどれだけ子どもを信頼するという覚悟を決められるかが大事。</li> <li>オープンドアスクールに関わる学校教員向けのワークショップが何よりも大事。どんな思いで、何を大事に、どのように子どもを信じたオープンドアスクールを作るのかという議論（合意形成）が尽くされないと根本が崩れるのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開校前は、長野県教育委員会とも教職員の配置等について相談していく。開校後は、職員研修等により、教職員間の対話を充実させる。さらに、既存の公立学校が、生徒や保護者にとってより魅力的な学びの場となるよう、町内の教職員合同研修等でオープンドアスクールの実践から学び合う機会を設けていきたいと考えている。</li> </ul>
7 地域との連携	<p>・ 探究的な学びや部活動等課外活動に関わる高校生との交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>屋外の環境が大事である。アイスホッケーリンク、ベンチ、校庭等、高校生による活用のプロジェクトが動いていくと交流がスムーズになり、1つのコミュニティになっていくのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学生と高校生双方の希望を聞きながら検討していく。</li> </ul>
その他	全体に関わって	<ul style="list-style-type: none"> <li>このスクールコンセプトは、既存校をより良いものとしたうえで、そこに通えない子どもが通う最後の砦をつくるという認識でよいのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>軽井沢町では、「『私たちの学校』づくり」として、オープンドアスクールの設置と既存の学校のさらなる魅力化を並行して取り組んでいる。</li> </ul>
	修業年限	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜間中学コースの修業年限をどのように設定するか。三豊市立高瀬中学校では、義務教育の年数と同じ9年間としている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>原則、最大6年間までの在籍と考えている。</li> </ul>

## 【資料3-2】

(※赤字は、今回の修正箇所)

(R8.1.28時点)

### 軽井沢オープンドアスクール（仮称）スクールコンセプト

- ・学校に通えないなどの理由により、学校生活において様々な学びを十分に享受できていない学齢期の子どもたちや外国籍・外国由来の人たち、十分に享受できなかった学齢経過者が集い、教員や支援員など信頼できる大人とともに、それぞれのペースや空間で安心して学び、成長を実感できるインクルーシブでフレキシブルな学びの場を創造
- ・加えて既存の公立学校が子どもたちや保護者にとって、より魅力的な学びの場となるよう、設置するオープンドアスクールの理念や仕組み、学校文化や学校風土などの特長を積極的に導入

#### 1 設置形態

- ・「学びの多様化学校」と「夜間中学」を併設した新たな学びの場
- ・軽井沢町立軽井沢中学校の分校として設置

#### 2 対象生徒

- ・様々な事情で学校への登校が困難な生徒（不登校の子どもたち）  
→ 軽井沢中学校在籍者（又は在籍予定者）を想定
- ・学齢経過者のうち、さまざまな理由により中学校で十分に学ぶことができなかった方
- ・日本の中学校にあたる教育を十分に受けていない外国籍又は外国由来の方  
→ 軽井沢町だけでなく近隣市町村在住者も想定

#### 3 設置場所

- ・町内の既存公共施設（必要な範囲で改修等を行い使用）  
→ 軽井沢高等学校の北校舎

#### 4 学びの姿

- ・自分のペースで学ぶ
- ・自分らしさを大切にしながら学ぶ
- ・自分の決めた方法で学ぶ
- ・体験的に学ぶ
- ・自分に合った時間帯で学ぶ
- ・多様な人とまじりあって学ぶ
- ・自分の学びたいことを多く学ぶ
- ・探究的に学ぶ

#### 5 生活の姿

- ・ありのままにいられる場所
- ・くつろいだり遊んだりできる場所
- ・必要なことは自分たちで話し合って決定
- ・安心できる居場所
- ・十分に対話や雑談をする時間
- ・周囲に頼れる大人の存在

#### 6 教職員

- ・展開される学びの姿や生活の姿を保障できる教員、ともに学び成長できる教員、管理的だったり上から目線ではない教員（教員研修の充実）
- ・教員に加えてSC（スクールカウンセラー）、SSW（スクールソーシャルワーカー）、特別支援教育支援員、SS（スクールサポーター）やボランティアなど

#### 7 地域との連携

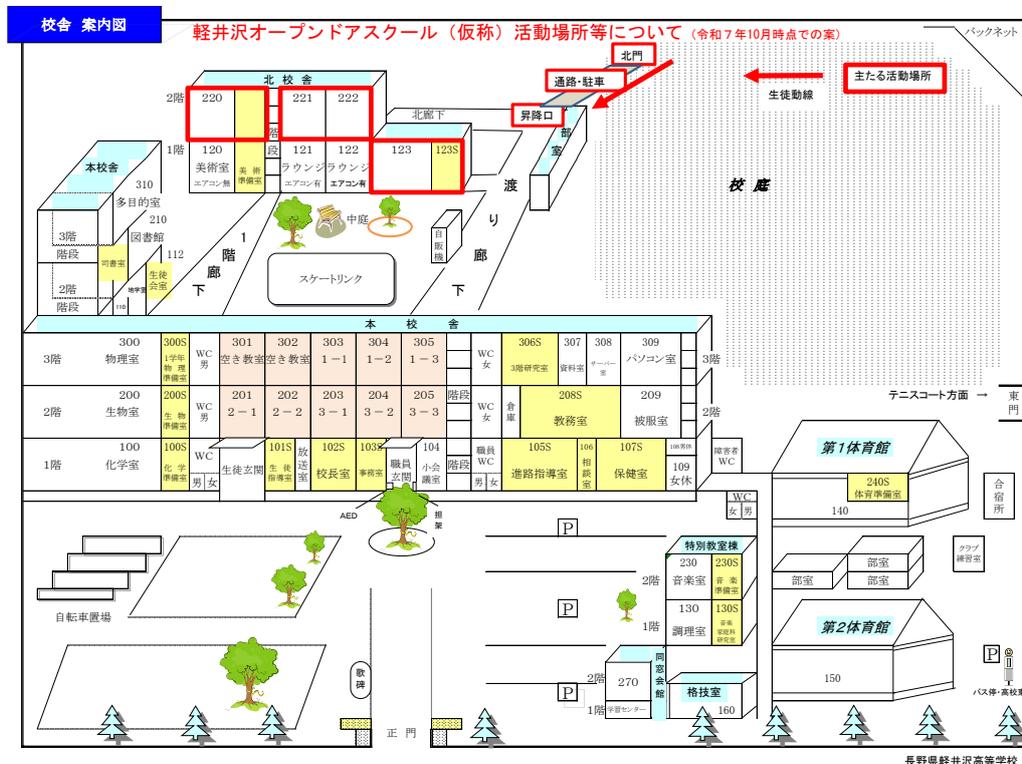
- 例 ・体験的な学びや探究的な学び（軽井沢学）に関わる大人との交流
- ・探究的な学びや部活動等課外活動に関わる高校生との交流

## 設置場所について

### 1 設置場所

軽井沢高等学校の北校舎とする。

### 2 校舎配置図（赤枠が、使用を想定している部分）



### 3 校舎見学について

- (1) 日時：令和7年10月30日（木）17:00～17:30（第5回設置準備会議後）
- (2) 参加者：設置準備会議委員のうち、見学を希望された方11名、事務局7名
- (3) 内容：軽井沢高等学校の北校舎のうち、軽井沢オープンスクール（仮称）で使用を想定している部分（校舎配置図の赤枠の部分）についての見学を行った。
- (4) 委員の皆様から担当者が聞き取ったご意見（一部）：
  - ・220 教室には、料理ができる場所（キッチンスペース）が絶対に必要。成功している学校は必ず設けている。食べることは大事。コミュニケーションがとれ、調理のスキルも身につけることにつながるため。
  - ・221 教室を普通教室として利用する場合、現状は既存校でイメージする「ザ・教室」であるので、学校っぽくないようにリノベーションしてほしい。
  - ・123 教室は、絨毯があるのが良い。絨毯があることで寝転がることもできる。
  - ・123S 教室を職員室として利用する場合、個々の机だけではなく、シェアするタイプの机もあると良い。生徒がふらっと入ってこられたり、中の様子も見られる職員室になったりすると良い。ある意味この部屋が一番奥になるので、入り口近くの門番的な部屋ではないのはいいかもかもしれない。
  - ・企業による家具等の備品の提供は良いのではないか。
  - ・会議資料にあった学習空間はみんな素敵だったので、ああいう空間になると良い。
  - ・渡り廊下には、外灯が必要である。
  - ・部室がこんなにあるのはすごい。個室として利用できないか。

## 軽井沢オープンドアスクール（仮称）スクールデザインについて

### 1 日課

- (1) 第5回設置準備会議でいただいた質問・意見と事務局の対応 【資料5-2】
- (2) 日課（第2案） 【資料5-3】
- (3) 公共施設における町内の生徒の居場所について（案） 【資料5-4】

### 2 教育課程

- (1) 第5回設置準備会議でいただいた質問・意見と事務局の対応 【資料5-5】
- (2) 教育課程（第2案） 【資料5-6】

### 3 学習空間デザイン

※第5回設置準備会議後の修正なし 【資料5-7】

＜以上は、第5回設置準備会議でも提案した内容＞

### 4 学校規模（案）

- (1) 学びの多様化学校コース  
各学年1学級とし、1学級の定員は10人程度、全体の定員は30人程度とする。
- (2) 夜間中学コース  
各学年1学級とし、1学級の定員は5人程度、全体の定員は15人程度とする。

### 5 転入学時期（案）

	1学年	2学年	3学年
学びの多様化学校コース	4月及び10月（10月は定員に空きがある場合）		
夜間中学コース	同上		

### 6 夜間中学コースの修業年限（案）

生徒の希望や学習の状況によって、原則最大6年間までの在籍を可能とする。

### 7 校名

「軽井沢オープンドアスクール」としたい。  
ただし、開校後に生徒や教職員等の意見を聞きながら愛称等の必要性について検討する。

## 【資料5-2】

### 「軽井沢オープンドアスクール（仮称）の日課」に関わる 意見・質問と事務局対応

R8. 1. 28時点

項目	内容	委員の皆様からの意見・質問	事務局の対応	
登下校	時間や手段	<ul style="list-style-type: none"> <li>もっと早い時間帯での学びを想定していた。この場合生徒はどう通学してくるのか。家族の送迎か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存校への通学と同様によるものと考えているため、スクールバスの運行については、現時点では計画していない。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>学びの多様化学校コースの生徒が徒歩で登下校できるのかを考えると、電車の時間に合わせてスクールバスが走ると利用しやすいのではないか。</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が電車やバスに乗れない場合、登下校が送迎となり家庭の負担が大きくなる。専用のスクールバスがあるとありがたい。</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭の送迎の都合で開錠時間よりも早く登校したい場合、高校の図書館で待機できると良いのではないか。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭のニーズがある場合、別紙【資料5-4】で示したように、オープンドアスクール以外の町内の施設を活用することも検討していただく。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>登校時間は何時くらいを想定しているか。既存校の下校時間と重なるのではないか。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>登校時間は生徒によってさまざま、既存校の生徒と会いたくない場合はその時間を避けて登校することになると想定される。</li> </ul>
夜間中学コース	日本語学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>就労している外国人から、日本語習得の希望が出ている。その場合も4時間出席する必要はあるか。仕事の終了時からの部分的な出席でも良いのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語の修得のみを目的とした夜間中学コースへの入学は認められないが、仕事の終了時からの出席は可能である。</li> </ul>	
	オンライン授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>通学したいが事情があってできない生徒のために、オンラインでの学びはできるようにしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンライン授業を出席扱いとするための条件を整理し、対応できるようにしていく。</li> </ul>	
マイプランタイム①・② (仮称)	運用	<ul style="list-style-type: none"> <li>学びの多様化学校コースのマイプランタイム①・②はあくまで自習としての位置づけか。この2コマに出席すれば3・4時間目は出席しなくて良いというわけにはいかないのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の時間割としてはこのように設定しているが、オープンドアスクールでは、この時間割に関わらず、個々の生徒の学びが行われることを想定しており、そのような学びについてもその成果を成績に反映する。</li> </ul>	
3・4時間目 (2つのコース共通の時間)	出席	<ul style="list-style-type: none"> <li>この時間がオープンドアスクールの肝になると思われる。学びの多様化学校コースの生徒がこの時間より早く帰宅するのはもったいない。家庭にも協力してもらい、ぜひ参加できると良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒や保護者にオープンドアスクールの理念を理解していただき、可能な限り両コースの交流ができるよう推進していく。</li> </ul>	

項目	内容	委員の皆様からの意見・質問	事務局の対応
全体に関して	時間帯	<ul style="list-style-type: none"> <li>この日課（時間帯）は、勤務する教職員のシフトを回すためのものではないかと考えてしまう。生徒の最善の利益（ウェルビーイング）を実現するためのものか疑問である。なぜこのような時間割なのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あくまでもオープンドアスクールの理念（異年齢集団による学び）にもとづく。時間割として決まっているものはあるが、生徒個々のペースに合わせて学校で過ごす時間を選択できるようにしていく。</li> </ul>
	運用	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会の中で、夜間中学に求めるニーズが変わってきている。学びの多様な学校コースの時間帯にも夜間中学の対象者が通学できるという認識で良いか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オープンドアスクールの理念であり、そのように考えている。</li> </ul>
	休み時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>休み時間がほとんどないのは、教室の出入りを自由にできるからか。休み時間も重なるようにして2つのコースの生徒が交流できると良いのではないか。学校に来る目的は学習だけではないことも考えると、やはり休み時間は必要と思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中であっても、生徒が個々のペースで休憩したり生徒同士が自由に交流できるようにしたいと考えているが、2時間目と3時間目の間に20分間の休み時間を設け、両コースの交流の時間をとることで、共通の授業に向けた準備ができるようにする。</li> </ul>
その他	高校の活動への参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>3・4時間目に高校の部活動に参加したい場合、柔軟に対応できると良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の希望があれば、高校側に相談していく。</li> </ul>

# 【資料5-3】

## 軽井沢オープンドアスクール（仮称）の日課（第2案）

※時間の名称は仮。

基本の時間割	休み時間 2時間目と3時間目の間 20分 それ以外 5分
2つのコース共通の時間	
希望に応じて学べる時間	

時間	学びの多様化学校コース	夜間中学コース
10:30	開錠	
10:30~14:00	マイタイム（※任意）	
14:00~14:40	マイプランタイム①（40分）	
14:45~15:25	マイプランタイム②（40分）	
15:30~16:10	1時間目（40分）	この時間も、学びの多様化学校コースの生徒と共同で学ぶことも可能です。
16:15~16:55	2時間目（40分）	
16:55~17:15	休憩（20分）	
17:15~17:55	3時間目（40分）	3時間目（40分）
18:00~18:40	4時間目（40分）	4時間目（40分）
18:40~19:00	この時間も、夜間中学コースの生徒と共同で学ぶことが可能です。	夕食・休憩（20分）
19:05~19:45		5時間目（40分）
19:50~20:30		6時間目（40分）
20:30~21:00		マイプランタイム③（30分）
21:10	施錠 完全下校	

活動	内容	スクールコンセプトとの対応
学びの多様化学校コース	マイタイム（仮称）	「5 生活の姿」 ・ありのままにいられる場所 ・くつろいだり遊んだりできる場所 ・安心できる居場所
	マイプランタイム①②（仮称）	「4 学びの姿」 ・自分のペースで学ぶ
共通	この時間は、学校が授業を行う時間として設定している時間です。 先生が前で説明したり、仲間と相談しながら学んだり、一人になって集中して学んだり……各自の思いや授業の内容によって、学び方はさまざまです。 3・4時間目は、2つのコース共通の時間です。「軽井沢オープンドアスクール（仮称）」ならではの交流が期待できます。	「4 学びの姿」 ・自分のペースで学ぶ ・自分らしさを大切にしながら学ぶ ・自分の決めた方法で学ぶ ・自分に合った時間帯で学ぶ ・多様な人とまじりあって学ぶ
夜間中学コース	夕食・休憩	この時間に各自が持参した食事をとることができます（給食はありません）。
	マイプランタイム③（仮称）	「4 学びの姿」 ・自分のペースで学ぶ

※各自の体調や都合に応じて、オンラインで授業に参加することもできます。

※既存の学校にある「朝の会」や「帰りの会」の時間はありませんが、該当する活動や時間は、

各自の希望を聞きながら、必要に応じて柔軟に設定していきます。

※授業の間の休み時間以外にも、各自の体調等に応じて休憩をとりながら授業に取り組むことができます。

※職員の勤務時間は10:20~18:50（早番）/13:00~21:30（遅番）（いずれも休憩時間45分を含む）

## 【資料5-4】

### 公共施設における町内の生徒の居場所について

地図番号	施設名	対象	利用可能時間
	軽井沢オーブンドアスクール	スクールコンセプト参照	10:30～21:10
①	軽井沢中学校	町内に住所を有する生徒	8:10～一般下校時刻
	校内教育支援センター (軽井沢中学校内)	学校に登校できるが、自分の所属する学級には入りづらい生徒	
②	軽井沢町教育支援センター	町内に住所を有し、学校に行きづらい状態にある児童生徒	9:00～15:00
③	児童発達支援センター なないろ軽井沢	0歳から18歳までの障がい児及び発達に支援が必要な児童生徒やその保護者	9:00～18:00
④	町立中軽井沢図書館	町内外を問わず誰でも	9:30～19:00
⑤～ ⑩	児童館 (東地区、中地区、西地区、 中軽井沢、南地区、長倉地区)	町民のうち、満3歳以上満18歳未満の者	9:00～18:30のうち、各児童館が定める時間



(Google Map より引用)

## 【資料5-5】

### 「軽井沢オープンドアスクール（仮称）の教育課程」に関わる 意見・質問と事務局対応

R8. 1. 28時点

項目	内容	委員の皆様からの意見・質問	事務局の対応
両コース 共通	学習形態・ 学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりのニーズに対応できない一斉授業は難しい。導入等で全体で確認する場面があっても良いが、基本的には自由進度学習や、自分の得意な部分を伸ばす学習ができると良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校としての年間学習計画をもとに個々の生徒が自分のペースや興味関心に応じた学習計画を立て、それにもとづいて学習を進めることも想定している。</li> </ul>

# 【資料5-6】

## 軽井沢オープンドアスクール（仮称）の教育課程（第2案）

○教科の授業時数を削減し、総合的な学習の時間の充実及び3つの教科を新設する

【学びの多様化学校コース】

		各教科の授業時数										とことんクエストタイム	道徳	特別活動	【新】ヒューマンタイム	【新】ネイチャータイム	【新】表現タイム	総時数
学年	校種	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	英語								
1年	一般校	140	105	140	105	45	45	105	70	140	50	35	35	0	0	0	1015	
	軽井沢オープンドアスクール	70	70	70	70	15	15	70	35	70	70	0	35	60	60	60	770	
2年	一般校	140	105	105	140	35	35	105	70	140	70	35	35	0	0	0	1015	
	軽井沢オープンドアスクール	70	70	70	70	15	15	70	35	70	70	0	35	60	60	60	770	
3年	一般校	105	140	140	140	35	35	105	35	140	70	35	35	0	0	0	1015	
	軽井沢オープンドアスクール	70	70	70	70	15	15	70	35	70	70	0	35	60	60	60	770	

【夜間中学コース】

		各教科の授業時数										とことんクエストタイム	道徳	特別活動	【新】ヒューマンタイム	【新】ネイチャータイム	【新】表現タイム	総時数
学年	校種	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	英語								
全学年共通	軽井沢オープンドアスクール	70	70	70	70	15	15	70	35	70	70	0	35	40	10	60	700	

活動・教科	内容	スクールコンセプトとの対応
とことんクエストタイム（仮称）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「総合的な学習の時間」にあたる時間。</li> <li>○クエスト＝「探究」。自分の興味関心に応じて、内容や方法等全て自分で決めながら、じっくりと学びを深める。</li> <li>○個別最適な学びや多様な学びをセルフデザインするイメージ。</li> </ul>	<p>「4 学びの姿」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のペースで学ぶ</li> <li>・自分らしさを大切にしながら学ぶ</li> <li>・自分の決めた方法で学ぶ</li> <li>・自分の学びたいことを多く学ぶ</li> <li>・探究的に学ぶ</li> </ul>
ヒューマンタイム（仮称）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主に人文科学の視点から、自分自身や人間のあり方についての問いや社会的現象、人間関係の構築等を題材に、自己や他者、もの（資料）との対話を通して考えを深める。</li> <li>○道徳、国語、社会の削減分の補完を想定。</li> <li>○例として、以下のような活動が考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間と自然との関わりのあり方について、ネイチャータイム（下記参照）とも関連させながら考えを深める。</li> <li>・自分のあり方や生き方について考える。</li> <li>・現在や過去の社会的現象について自分との関わりで考える。</li> <li>・多様な人との関わり方や、社会生活を送るうえで必要なスキル等について、実践を通して学ぶ（SST）。</li> </ul> </li> </ul>	<p>軽井沢町の豊かな資源（自然、ひと、もの、こと等）を生かした学習を展開することで、生徒が興味をもち、より効果的な学習となることを目指す。</p> <p>「4 学びの姿」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のペースで学ぶ</li> <li>・自分らしさを大切にしながら学ぶ</li> <li>・自分の決めた方法で学ぶ</li> <li>・体験的に学ぶ</li> <li>・多様な人とまじりあって学ぶ</li> <li>・自分の学びたいことを多く学ぶ</li> <li>・探究的に学ぶ</li> </ul>
ネイチャータイム（仮称）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主に自然科学の視点から、町内の豊かな自然の中での体験活動や調査等を通して、教科の枠を超えた学習を行う。</li> <li>○国語、社会、数学、理科、技術・家庭、道徳の削減分の補完を想定。</li> <li>○例として、以下のような活動が考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンプや農業体験、天体観測などの屋外で自然や動植物と触れ合う活動の中での発見や疑問をもとに学習を進める。</li> <li>・身近な地域や日本、世界で起こっている出来事や課題を選び、解決に向けて複数の視点に着目して探究し、成果をまとめ、内容についてフィードバックを受ける。</li> <li>・調査内容の効果的なまとめ方や発表のしかた、それに伴うICT機器の利用のしかたについて学習する。</li> </ul> </li> </ul>	<p>「7 地域との連携」</p>
表現タイム（仮称）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○さまざまな教科の要素を組み合わせた体験活動を通して、自己の表現力を磨き、他者と表現を認め合い、自己肯定感を高める。</li> <li>○国語、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、英語、道徳の削減分の補完を想定。</li> <li>○例として、以下のような活動が考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりの表現方法（詩、歌、クラフト体験、ダンス、衣服の製作等）で表現し、その中での交流を行う。</li> <li>・表現活動を行うなかで、自分の思いを表現したり、伝え合ったりするために必要な方法やスキルを身につける。</li> </ul> </li> </ul>	

# 【資料5-7】

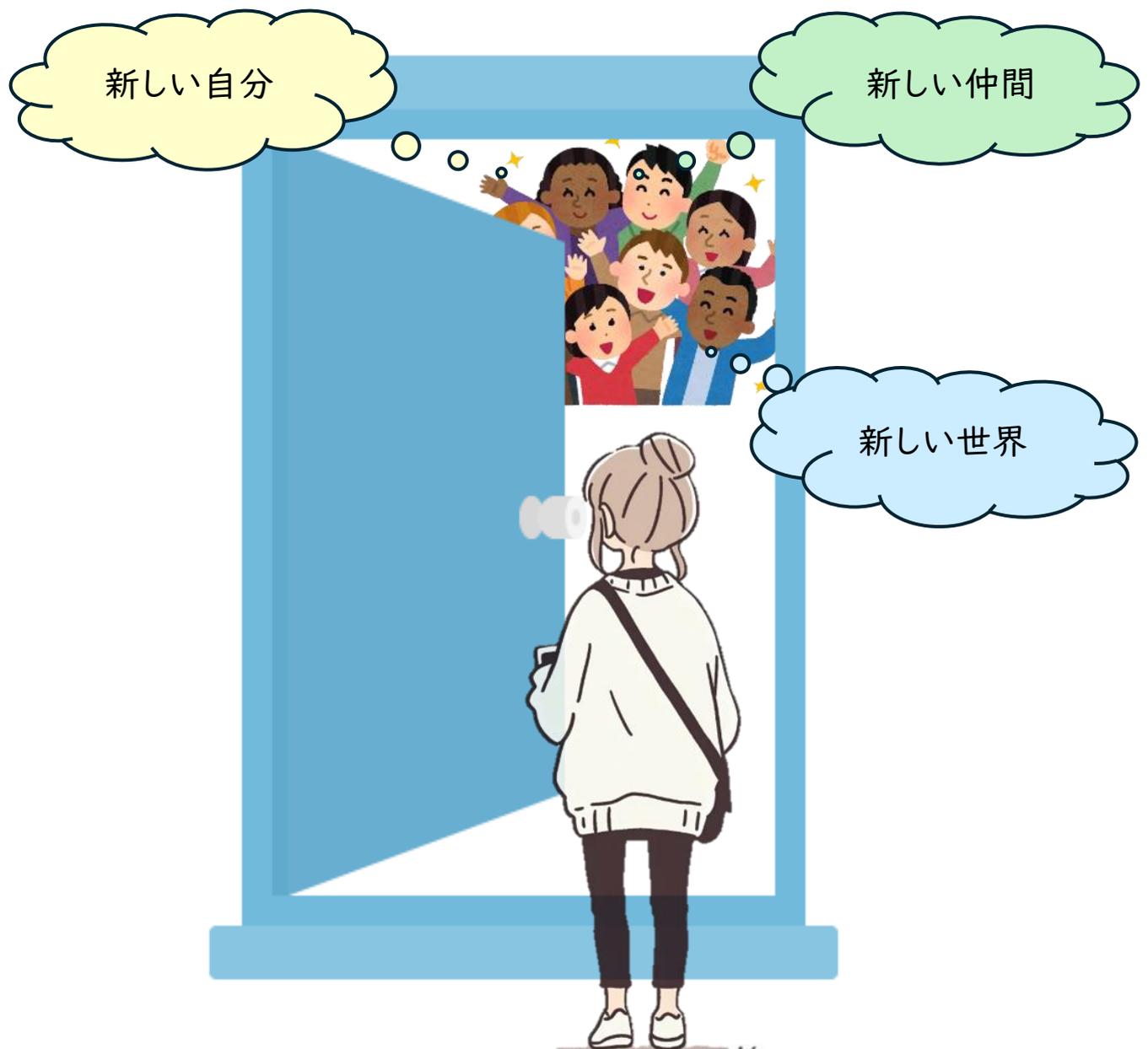
## 「軽井沢オーブンドアスクール(仮称)」の学習空間デザイン(第1案)

- (1) 教室の配置や名称は仮。教室の名称や備品、具体的な使い方は、生徒の意見を反映させて決定する。  
 (「5 生活の姿」必要なことは自分たちで話し合って決定)
- (2) 備品は、開校時に全て揃えることは想定せず、実情に応じて変更する。また、生徒が家庭から持参しても良い。  
 (「5 生活の姿」ありのままでもいられる場所)
- (3) 画像はイメージとして引用。引用元は以下の通り。  
 岐阜市立岐阜小学校ホームページ (★) 岐阜市立草湊中学校学校案内 (☆)  
 大阪市立心和中学校視察時の様子 (●) 軽井沢中学校 (○) 軽井沢町教育支援センター (◆)
- (4) 校内の主な空間のみを記載。

のびルーム (仮称)	わいわいラボ (仮称)	シークレットベース (仮称)
 ★  ☆	 ●  ☆	 ☆  ●
<p><b>学びを通して、一人ひとりの意欲やできることを広げる空間</b>                      (「4 学びの姿」自分のペースで学ぶ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で主に使う空間です。</li> <li>・先生が前で説明したり、仲間と相談しながら学んだり、一人になって集中して学んだり……各自の思いや授業の内容によって、学び方や空間の使い方はさまざまです。</li> </ul>	<p><b>「わいわい」つながり、新しいアイデアややる気生まれる空間</b>                      (「5 生活の姿」くつろいだり遊んだりできる場所・十分に対話や雑談をする時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間と話し合いをしたり、協働学習をしたるときに使う空間です。</li> <li>・ラボ=laboratory (実験室)</li> <li>・仲間と対話やゲームをしたり、本を読んだり……人やものをつながることで、新しいアイデアや活動へのやる気生まれることが期待できます。</li> </ul>	<p><b>一人で過ごし、エネルギーをためる空間</b>                      (「5 生活の姿」安心できる居場所)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なんとなく疲れたな、他の人と過ごすのがしんどいな、というときに使う空間です。</li> <li>・シークレットベース=secret base (秘密基地)</li> <li>・ここではおしゃべりはせず、個々でゆったり過ごすことで、エネルギーをためられるようになります。</li> </ul>
スタッフルーム (仮称)	保健室 (仮称)	カウンセリングルーム (仮称)
 ◆  ☆	 ○  ○	 ●  ●
<p><b>学校で生徒を支える大人が集える空間</b>                      (「5 生活の姿」周囲に頼れる大人の存在)</p>	<p><b>生徒のけがや心身の不調に寄り添える空間</b>                      (「5 生活の姿」安心できる居場所・周囲に頼れる大人の存在)</p>	<p><b>スクールカウンセラーやスクールサポーター等と相談ができる空間</b>                      (「5 生活の姿」安心できる居場所・周囲に頼れる大人の存在)</p>

# 軽井沢町立軽井沢オーブンドアスクール (仮称) 学校案内(案)

この学校のドアは、みなさんに開かれています。



軽井沢町教育委員会

# 軽井沢オーブンドアスクール(仮称)って、どんな学校？

長野県初の、「学びの多様化学校コース」と「夜間中学コース」を併設した  
多様な方が集い、共に学び、共に成長できる新しい学校(軽井沢中学校の分校)です。

- 授業は、複数の教員により、一人ひとりの状況に合わせてきめ細かく支援を行います。
- AI教材を活用したり、少人数やグループなどで学習したり、オンラインで学習したりすることもできます。
- 校則はありません。服装や髪型、持ち物等も自由です。
- 規則等が必要になった場合は、生徒と教職員で相談していきます。

## <学びの多様化学校コース>

学校を休みがちだったり、行きづらかったりする生徒の、こんな願いに寄りそいます。

自分に合った  
学び方を選び  
たい

自分の好きな  
ことをとことん  
学びたい

しんどくなったら  
休憩できる  
部屋がほしい

みんなと同じ  
ように成績も  
つけてほしい

## <夜間中学コース>

義務教育の年齢を過ぎた方や外国由来の方の、  
こんな願いに寄りそいます。

仕事や生活の  
ために学びた  
い

後悔しないよ  
うに学び直し  
たい

中学校卒業資  
格をとり、高校  
に進学したい

もう一度中学  
校生活をやり  
直したい

## <こんな居場所をつくります(予定)>



学びを通して、一人ひとりの  
意欲やできることを広げる場所



仲間とつながり、新しいアイデア  
ややる気生まれる場所



一人で過ごし、  
エネルギーをためる場所



生徒を支える大人が集う場所



けが、心や体の不調のときに  
過ごせる場所



悩みや不安をだれかに  
相談できる場所

# 軽井沢オーブンドアスクール(仮称)の日課

基本の時間割

2つのコース共通の時間

希望に応じて学べる時間

時間	学びの多様化学校コース	夜間中学コース
10:30	開錠	
10:30~14:00	マイタイム(※任意)	
14:00~14:40	マイプランタイム①(40分)	
14:45~15:25	マイプランタイム②(40分)	
15:30~16:10	1時間目(40分)	この時間も、学びの多様化学校コースの生徒と共同で学ぶことも可能です。
16:15~16:55	2時間目(40分)	
16:55~17:15	休憩(20分)	
17:15~17:55	3時間目(40分)	3時間目(40分)
18:00~18:40	4時間目(40分)	4時間目(40分)
18:40~19:00	この時間も、夜間中学コースの生徒と共同で学ぶことが可能です。	夕食・休憩(20分)
19:05~19:45		5時間目(40分)
19:50~20:30		6時間目(40分)
20:30~21:00		マイプランタイム③(30分)
21:10	施錠 完全下校	

	活動	内容
学びの多様化学校コース	マイタイム(仮称)	リラックスして好きなことをする、総合的な学習の時間にあてる、昼食(お弁当や家庭科室で調理したもの)(給食はありません)をとるなど、学校を居場所として、自分の興味にもとづいて過ごす時間です。この時間に登校することもできます。
	マイプランタイム①②(仮称)	自分の計画にもとづいて自学自習をしたり、先生に質問をしたりすることができる時間です。この時間に登校することもできます。週2日程度は、マイプランタイム②が授業の時間となります。
共通	1~6時間目	この時間は、学校が授業を行う時間として設定している時間です。先生が前で説明したり、仲間と相談しながら学んだり、一人になって集中して学んだり……各自の思いや授業の内容によって、学び方はさまざまです。3・4時間目は、2つのコース共通の時間です。「軽井沢オーブンドアスクール(仮称)」ならではの交流が期待できます。
夜間中学コース	夕食・休憩	この時間に各自が持参した食事をとることができます(給食はありません)。
	マイプランタイム③(仮称)	自分の計画にもとづいて自学自習をしたり、先生に質問をしたりすることができる時間です。

<一人ひとりに合った学び方や過ごし方ができます(例)>

Aさん (学びの多様化学校コース)		Bさん (学びの多様化学校コース)		Cさん (夜間中学コース)	
	朝は早めに登校し、自分の好きなことにじっくり取り組んで、早めに下校します。		体調が整う午後から登校し、夜間中学コースとの共通授業にも参加します。		仕事の後に4時間目から登校し、自学自習もして下校します。
10:30 ~ 14:00	植物の観察	14:45 ~ 15:25	授業までリラックスして過ごす	18:00 ~ 20:30	授業に参加
14:00 ~ 14:40	観察で疑問に思ったことを先生に質問	15:30 ~ 17:55	授業に参加(体調によってはオンラインで参加)	20:30 ~ 21:00	先生に質問しながら授業の復習
14:45	下校	18:00	下校	21:10	下校

# 軽井沢オープンドアスクール(仮称)での学び(教育課程)

○授業は、1コマ40分です。

○1週間に行う授業時数は、学びの多様化学校コース22時間(1日に4~5コマ)、夜間中学コース20時間(1日4コマ)です。

○年間の総授業時間数は、学びの多様化学校コース770時間、夜間中学コース700時間です。  
(一般的な中学校の総授業時間数は1015時間です)

○軽井沢町の豊かな資源(自然、ひと、もの、こと等)を生かした学習が特徴です。

また、一般の中学校で学習する教科の時間の他に、下にあるような学校独自の時間があります。

## 【とことんクエストタイム(仮称)】

○クエスト=「探究」。

自分の興味関心に応じて、  
内容や方法等全て自分で  
決めながら、じっくりと学びを  
深めます。



## 【ヒューマンタイム(仮称)】

○例えば、こんな学習を考えています。

- ・自分のあり方や生き方について考える。
- ・現在や過去のできごとについて、自分との関わりで考える。
- ・多様な人との関わり方や、社会生活を送るうえで必要なスキル等について、実践を通して学ぶ。



## 【ネイチャータイム(仮称)】

○例えば、こんな学習を考えています。

- ・キャンプや農業体験、天体観測などの屋外で自然とふれ合う活動の中での発見や疑問をもとに学習を進める。
- ・身近な地域や日本、世界で起こっている出来事や課題を選び、解決に向けて探究し、成果をまとめ、内容についてフィードバックを受ける。
- ・調査内容の効果的なまとめ方や発表のしかた、ICT機器の利用のしかたを学ぶ。



## 【表現タイム(仮称)】

○例えば、こんな学習を考えています。

- ・自分なりの表現方法(詩、歌、クラフト体験、ダンス、衣服の製作等)で表現し、その中での交流を行う。
- ・表現活動を行うなかで、自分の思いを表現したり、伝え合ったりするために必要な方法やスキルを身につける。



# 軽井沢オーブンドアスクール(仮称)のQ&A

Q1:学校ですか?フリースクールですか?	軽井沢町立の学校です。フリースクールではありません。ただし、「学びの場」や「居場所」の役割があるということでは共通の点もあります。
Q2:どんな人が入学できますか?定員はどれくらいですか?	くわしくは、6ページをご覧ください。
Q3:本校での活動(授業や行事、部活動等)に参加できますか?	軽井沢オーブンドアスクール(仮称)での活動が基本となりますが、本校と相談のうえ参加できる場合もあります。
Q4:登下校の方法は?	学校から指定はしません。各自安全な方法で登下校してください。
Q5:所属学年で扱わない学習内容にも対応できますか?	学習内容をさかのぼること、学習内容を進めることの両方について、一人ひとりの学習状況に応じて学ぶことができます。
Q6:成績はどのようにつけますか?	学習状況をもとに、個別に文章(生徒が努力した内容等についての励ましや助言)により行う予定です。進学の際等必要な場合は、5段階による評定をつけます。
Q7:どんな学校行事がありますか?	入学式と卒業式(ただし、既存の学校の内容とは異なる形を想定しています)以外の行事は、入学後に生徒と教職員で話し合い、決定していきます。学校行事は、2つのコースで合同で行うことも考えています。
Q8:どんな費用がかかりますか?	町立の学校なので、授業料や教科書代は既存の学校と同様で無料です。ただし、その他個人で購入する教材費や校外活動費、公共交通機関で通学する場合の定期券代等は負担していただくこととなります。就学援助が受けられる場合もありますので、入学後に学校へ相談してください。
Q9:卒業後の進路は?	既存の中学校と同じで、公立・私立の高等学校(全日制・定時制・通信制)、専修・専門学校等、本人の希望する進路先に向けて支援していきます。
Q10:既存の中学校のような学級活動や生徒会活動、部活動はありますか?	入学後に生徒と教員とを交えて話し合い、希望や必要に応じて行っていきます。
Q11:仕事の都合で週に数日しか通うことができませんが、夜間中学コースに入学できますか?	原則として毎日通うことを前提としていますが、学ぶ意欲等があれば入学できます。最長6年間在籍できるので、時間をかけて学ぶこともできます。
Q12:夜間中学コースで、日本語の勉強をしたいと考えています。日本語の授業だけに出席することはできますか?	中学校の教育課程を学ぶことが目的なので、日本語の修得のみを目的とした入学は認められません。

## 【基本情報】



〒389-0102 北佐久郡軽井沢町軽井沢 1323-43

TEL:0267-42-2390 FAX:0267-41-1014

E-mail:

URL:

<電車>軽井沢駅より約1.7km(徒歩約25分)

<バス>バス停「高校前」より約200m(徒歩約3分)・「離山」より約450m(徒歩約6分)

## こんな方の入学をお待ちしています

- 学びの多様化学校コース・夜間中学コースともに、4月及び10月が入学時期となります。
- 定員を超える希望があった場合や、要件を満たしていない場合は入学できない場合もあります。在籍校との連携（学びの多様化学校コースのみ）や、町教育委員会の担当者との面談等を通して、最終的な入学者を決定します。

### (1) 学びの多様化学校コース（定員：各学年10人程度、全体で30人程度）

以下の①・②を満たすとともに、③・④のいずれかを満たす必要があります

- ①軽井沢町立小学校6学年及び軽井沢中学校1・2学年に在籍している児童生徒
- ②軽井沢オープンドアスクール（仮称）で学びたいという思いのある児童生徒
- ③病気や経済的な理由を除き、年間30日以上（日数は目安）の欠席がある児童生徒
- ④校内教室支援センターや軽井沢町教育支援センターで過ごす時間が多かったり、学校への行きづらさを感じ、欠席がちであったりする児童生徒

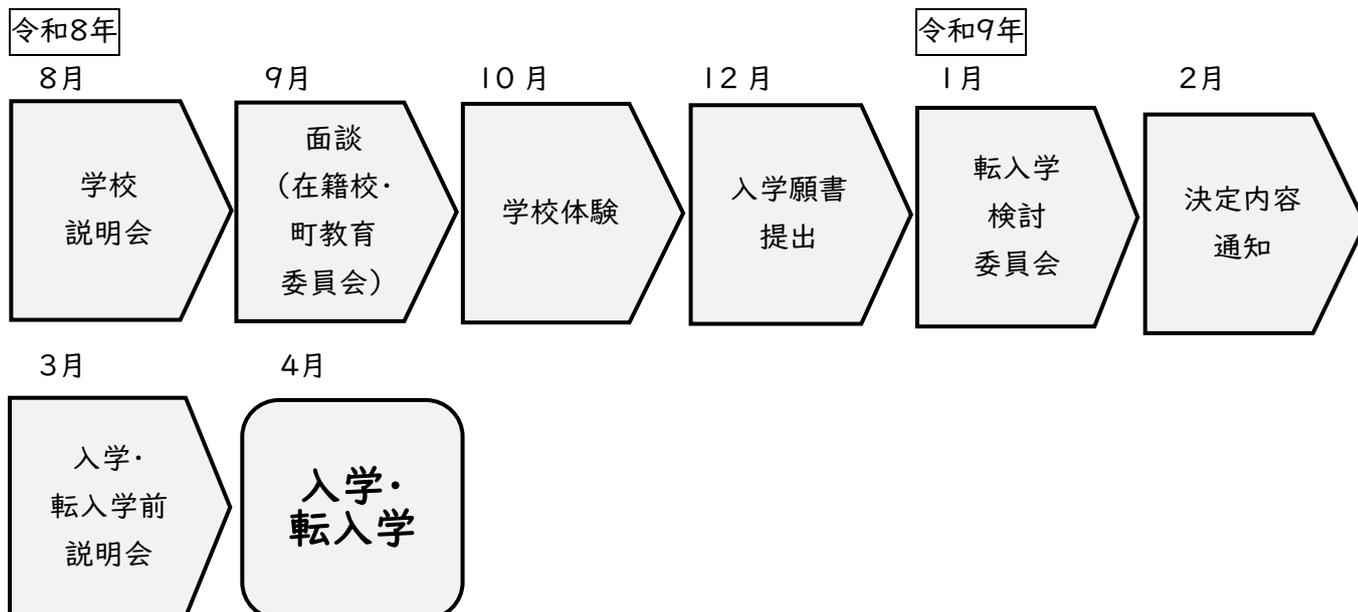
### (2) 夜間中学コース（定員：全体で15人程度）

以下の①・②を満たすとともに、③～⑤のいずれかを満たす必要があります

- ①学齢期（15歳になってから最初の3月31日まで）を過ぎた方
- ②軽井沢町内または協定を結んだ近隣の市町村在住の方
- ③小学校や中学校を卒業していない人
- ④中学校を卒業したが、十分学べなかったため、もう一度学び直したい人
- ⑤本国や日本で義務教育を修了していない外国籍または外国由来の方

## 入学・転入学までの流れ（令和9年4月入学の場合）

くわしくは、別紙「入学・転入学のてびき」をご覧ください。



# 【資料 7 - 1 ①】

別記様式 1 - 1 (A 4 たて型 横書き)

年 月 日

文部科学大臣 殿

管理機関名

## 指 定 申 請 書

不登校児童生徒等を対象とした特別の教育課程の編成を、別紙実施計画書のとおり、下記の学校において行いたいので、当該学校の同意書を添えて申請します。

記

学 校 名

校 長 名

所 在 地

## 【資料7-1②】

別記様式2-1 (A4 たて型 横書き)

年 月 日

学 校 名

校 長 名

同 意 書

本校において、別紙実施計画書のとおり、不登校児童生徒等の実態に配慮した特別の教育課程を編成することに同意します。

学びの多様な学校 実施計画書(別紙1)

1 基礎情報

(1)学校名(未定の場合はその旨を記入すること。)

--

(2)学校種、設置形態

学校種	
設置形態	
学科(高等学校の場合)	

2 児童生徒数

第○学年	名程度		
第○学年	名程度	合計	0 名程度

3 対象となる児童生徒(どのような不登校児童生徒等を対象とするのか、できる限り具体的に記入すること。)

--

4 教育課程の内容

(1)教育課程の基準の特例の概要

--

## 【資料 7 - 1 ③】

(2)小学校における教科の新設について(該当する場合のみ記入すること。中学校・高等学校・中等教育学校の場合は、学習指導要領上教科の新設が認められているため記入不要とすること。)

①新設する教科の名称

②新設する教科の各学年の目標及び内容(教科ごと・学年ごとに記入すること。)

(3)学習指導要領に示す各教科の指導内容の異なる学年への移行について(該当する場合のみ記入すること。)

①指導内容を移行する教科の名称

②移行する内容及び移行先の学年

(4)適応開始時期について

5 特別の教育課程を編成して教育を実施する際の不登校児童生徒等の実態に配慮した指導上の工夫について

--

6 不登校児童生徒等への動線的な配慮について

(1)校舎を含む学校敷地内の平面図の添付

--

## 【資料 7 - 1 ③】

(2)不登校児童生徒等への動線的な配慮(講じる場合のみ記入すること。母体と異なる学校種の敷地内や管理機関が設置・運営する他の施設内に分校型や分教室型を設置する場合は、通常の教育課程に基づく学校に通う児童生徒や施設利用者などと使用する出入口や階段を分けるなどして、学びの多様化学校に通う児童生徒が安心して学習できる環境をどのように整えるのか、できる限り具体的に記入すること。)

--

### 7 担当者名簿

<p>(1)学校</p> <p>①住所</p> <p>②連絡先 電話番号(直通) E-mail</p> <p>③校長名</p> <p>(2)管理機関</p> <p>①名称</p> <p>②住所</p> <p>③連絡先 電話番号(直通) E-mail</p> <p>④担当者</p>	
--	--

## 〇〇中学校 教育課程表(令和〇年度)

	各教科の授業時数									特別の教科である 道徳の授業時数	総合的な学習の 時間の授業時数	特別活動の 授業時数	新設教科の 時数	総授業 時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健 体育	技術・ 家庭	外国語					
第1 学年														0
	(140)	(105)	(140)	(105)	(45)	(45)	(105)	(70)	(140)	(35)	(50)	(35)	(0)	(1015)
第2 学年														0
	(140)	(105)	(105)	(140)	(35)	(35)	(105)	(70)	(140)	(35)	(70)	(35)	(0)	(1015)
第3 学年														0
	(105)	(140)	(140)	(140)	(35)	(35)	(105)	(35)	(140)	(35)	(70)	(35)	(0)	(1015)
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(385)	(350)	(385)	(385)	(115)	(115)	(315)	(175)	(420)	(105)	(190)	(105)	(0)	(3045)

※表中のカッコ内には、標準授業時数を記入すること。



# 【資料 7 - 2 ①】

第 号  
令和 年 月 日

## 学校設置届出書

長野県教育委員会 様

〇〇〇教育委員会 印

下記のとおり、学校を設置します。

### 記

- 1 目 的
- 2 名 称
- 3 位 置
- 4 開設の時期

(添付書類)

- 1 学校環境図
- 2 校地校舎の図面
- 3 建築計画書
- 4 施設調書
- 5 備品調書
- 6 組織編制調書
- 7 学校設置条例の一部を改正する条例（写し）

## 【資料 7 - 2 ②】

### 学校統合及び併設校設置に伴う県教育委員会への手続きについて

- 1 学校統合する場合の申請手続き  
長野県法令 学校教育法施行細則に則り、所定の申請（届出）書により、県教委に届け出る必要がある。
- 2 上記の申請時期について  
申請期限は、統合校がスタートする年度の前年度末（3月31日）まで。  
前年度に申請し認可され、当該年度の4月1日より統合校をスタートする流れである。  
前年度までのいずれかのタイミングで設置条例等を変更する必要があるため、その改正完了と併せて申請する。

### 学校教育法施行細則 昭和 35 年 8 月 22 日（教育委員会規則第 11 号）

（趣旨）

**第 1 条** この規則は、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号。以下「法」という。）学校教育法施行令（昭和 28 年政令第 340 号。以下「政令」という。）、学校教育法施行規則（昭和 22 年文部省令第 11 号。以下「省令」という。）及び技能教育施設の指定等に関する規則（昭和 37 年文部省令第 8 号。以下「指定省令」という。）の規定に基づき、法の施行について必要な事項を定めるものとする。

（学校設置の認可申請書又は届出書等）

**第 2 条** 省令第 3 条に規定する認可申請書又は届出書（同項各号に掲げる事項を記載した書類を含む。）は、学校設置認可申請（届出）書（様式第 1 号）によるものとする。

2 前項に規定する認可申請（届出）書に添付する校地校舎等の図面は、学校環境図、校地校舎の図面、建築計画書（様式第 2 号）、施設調書（様式第 3 号）、備品調書（様式第 4 号）及び組織編制調書（様式第 5 号）によるものとする。

3 省令第 5 条に規定する認可申請書又は届出書（添付書類を含む。）は、学校目的（名称、位置、学則）変更認可申請（届出）書（様式第 6 号）によるものとする。

（校地校舎等の権利の取得処分又は現状変更届出書）

**第 3 条** 省令第 6 条に規定する届出書（事由及び時期を記載した書類を含む。）は、校地校舎等権利取得（処分、現状変更）届出書（様式第 7 号）によるものとする。

2 前項に規定する届出書に添付する校地校舎等の図面は、校地校舎の図面及び校地校舎等権利取得（処分、現状変更）調書（様式第 8 号）によるものとする。

（分校設置の認可申請書又は届出書）

**第 4 条** 省令第 7 条に規定する認可申請書又は届出書（同条各号に掲げる事項を記載した書類を含む。）は、分校設置認可申請（届出）書（様式第 9 号）によるものとする。

2 第 2 条第 2 項の規定は、前項に規定する認可申請（届出）書に添付する校地校舎等の図面について準用する。この場合において、同条同項中「学校環境図」とあるのは、「分校環境図」と読み替えるものとする。

# 【資料 7 - 2 ③】

学校設置認可申請（届出）書

第 号

年 月 日

長野県教育委員会 殿

市 町 村 教 育 委 員 会  
(市町村学校組合教育委員会) 印

下記のとおり、学校を設置したいので、認可してください。  
(します。)

記

- 1 目 的
- 2 名 称
- 3 位 置
- 4 経費の見積り及び維持方法
- 5 開 設 の 時 期
- 6 学 則 (別紙)

(添付書類)

- 1 学 校 環 境 図
- 2 校地校舎の図面
- 3 建 築 計 画 書
- 4 施 設 調 書
- 5 備 品 調 書
- 6 組 織 編 制 調 書

(備考)

小学校、中学校及び義務教育学校にあつては、記の「4 経費の見積り及び維持方法」及び「6 学則 (別紙)」は、除く。

## 【資料7-2④】

### 建 築 計 画 書

- 1 学 校 名
- 2 着工（予定）年月日
- 3 竣工予定年月日
- 4 工 事 金 総 額
- 5 建 築 内 容

普通教室	室	平方メートル
特別教室	室	平方メートル
何 々		平方メートル

# 【資料 7 - 2 ⑤】

## 施 設 調 査 書

学 校 名

### 1 土 地

種 別	面 積	児 童（生 徒、幼 児） 1 人 当 面 積	摘 要
校 舎 敷 地	平方メートル	平方メートル	
運 動 場	平方メートル	平方メートル	
実 習 地	平方メートル	平方メートル	田 平方メートル 畑 平方メートル その他 平方メートル
学 有 林	平方メートル	平方メートル	
そ の 他	平方メートル	平方メートル	
計			

### 2 建 物

種 別	室 数	面 積	摘 要
校 長 室		平方メートル	
会 議 室		平方メートル	
職 員 室		平方メートル	
事 務 室		平方メートル	
普 通 教 室		平方メートル	
理 科 室		平方メートル	
図 書 室		平方メートル	
音 楽 室		平方メートル	
何 々		平方メートル	
何 々		平方メートル	
計		平方メートル	

# 【資料7-2⑥】

備 品 調 書

学 校 名

品 名	数 量	摘 要
児童（生徒・幼児）用机		
職 員 用 机		
児童（生徒・幼児）用いす		
職 員 用 い す		
黒 板		
ピ ア ノ		
何 々		
何 々		

# 【資料7-2⑦】

## 組 織 編 制 調 書

学 校 名

### 1 入学者予定数

年 度	第 学 年	第 学 年	第 学 年	第 学 年	第 学 年	第 学 年	備 考
第1年度	人	人	人	人	人	人	
第2年度	人	人	人	人	人	人	
第3年度	人	人	人	人	人	人	

### 2 職員編制予定数

年 度	校 長	教 頭	教 諭	助教諭	講 師	事 務 員	何 々	計
第1年度	人	人	人	人	人	人	人	人
第2年度	人	人	人	人	人	人	人	人
第3年度	人	人	人	人	人	人	人	人

## 【資料7-2⑧】

学校目的（名称、位置、学則）変更認可申請（届出）書

第 号

年 月 日

長野県教育委員会 殿

市 町 村 教 育 委 員 会 団

（市町村学校組合教育委員会）

下記のとおり、学校の目的（名称、位置、学則）を変更<sup>したいので、</sup>（<sub>します。</sub>）認可してください。

い。

記

- 1 新目的（名称、位置、学則（別紙））
- 2 旧目的（名称、位置、学則（別紙））
- 3 変更の事由
- 4 変更の時期

（備考）

小学校、中学校及び義務教育学校にあつては、記の「学則（別紙）」は、除く。

# 【資料7-2⑨】

分校設置認可申請（届出）書

第 号

年 月 日

長野県教育委員会 殿

市 町 村 教 育 委 員 会 印

(市町村学校組合教育委員会)

下記のとおり、分校を設置したいので、認可してください。  
(します。)

記

- 1 事 由
- 2 名 称
- 3 位 置
- 4 経費の見積り及び維持方法
- 5 開 設 の 時 期
- 6 学則の変更事項（別紙）

(添付書類)

- 1 分 校 環 境 図
- 2 校地校舎の図面
- 3 建 築 計 画 書
- 4 施 設 調 書
- 5 備 品 調 書
- 6 組 織 編 制 調 書

(備考)

- 1 小学校、中学校及び義務教育学校の分校にあつては記の「4 経費の見積り及び維持方法」及び「6 学則の変更事項（別紙）」は、除く。
- 2 「分校環境図」は、本校との関係をも明示したものとすること。